
平成 28 年度なは市民協働大学院
受講生活動結果報告書
～第 5 次那覇市総合計画市民提案～



平成 29 年 3 月
なは市民協働大学院

目 次

I	はじめに	- 1 -
II	第 5 次那覇市総合計画市民提案の策定	- 2 -
1	なは市民協働大学院の構成	- 2 -
2	第 5 次那覇市総合計画市民提案の構成	- 3 -
III	なは市民協働大学院の取り組み概要	- 4 -
	第 3 回（平成 28 年 6 月 30 日）	- 5 -
	第 4 回（平成 28 年 7 月 14 日）	- 6 -
	第 5 回（平成 28 年 7 月 28 日）	- 7 -
	第 7 回（平成 28 年 8 月 25 日）	- 8 -
	第 8 回（平成 28 年 9 月 8 日）	- 9 -
	第 9 回（平成 28 年 9 月 21 日）	- 10 -
	第 10 回（平成 28 年 10 月 13 日）	- 11 -
	第 11 回（平成 28 年 10 月 27 日）	- 12 -
	第 13 回（平成 28 年 11 月 24 日）	- 13 -
	特別開催（平成 29 年 1 月 21 日）	- 14 -
	第 14 回（平成 29 年 2 月 11 日）	- 15 -
IV	第 5 次那覇市総合計画市民提案	- 16 -
	全体キャッチフレーズ	- 16 -
	自治・協働・防災	- 17 -
	医療・福祉・保健	- 26 -
	子ども・教育・文化	- 31 -
	観光・産業・情報	- 37 -
	環境・都市基盤	- 44 -
V	平成 28 年度なは市民協働大学院の受講生と運営ルール	- 47 -
	受講生名簿	- 47 -
	平成 28 年度なは市民協働大学院運営ルール	- 48 -

I はじめに

受講生からのメッセージ ～市民提案策定を終えて～

参加するにつれ一市民として那覇市に訴えたいという感覚が出てきて、市民目線で参加することができました。総合計画の評価において市民が参加できる仕組みがあるといいなと思いました。プロセス評価についてはある程度 PDCA の手法が開発され定着していますが、セオリー評価についても、市民が参画するなど工夫があるといいのかなと思いました。

(30代 女性)

総合計画を作るという大学院は10年に1回しかないので、貴重な機会に参加できて楽しかったです。地域に友達を作りたいと思って参加しているので、ぜひ、もっと色々な、例えば、聴覚障害や肢体不自由といった challenged な人の参加も促して多様性を持ったところにしてもらいたいと思います。

(40代 女性)

県内の市町村で、これだけのことをこなせるのは、おそらく那覇市ぐらいではないかと思います。また、そこに参加される方々の意識の高さにも驚かされました。やはり、他の市町村の模範となる先駆的な取り組みが、組織的にできるのは、那覇市ならではだと思います。期待が大きい分、市民のみなさまからの声も、厳しいものもあるのではないかと思います。それでも、それに応えられるだけの力量があると信じています。将来的に那覇市が、憧れの場所として、住みたい街、働きたい街になっていったらいいと思います。また県内の市町村の模範にもなって欲しいとも思います。私も一市民として、そのことに貢献出来るように、出来ることから取り組んでいきたいと思います。

(40代 女性)

回を重ねるごとに光が見えてきて、やりがいがありました。これまで那覇のまちづくり講座、市民協働大学、市民協働大学院と参加してきましたが、今回、那覇市の第5次総計の策定ということに関わる事が出来て、良い経験になりました。市民が施策にかかわることにより、より身近なものになり、課題も認識しながら、達成にも近づけるのだと思いました。

(50代 女性)

多方面より様々な年代の方々が参加し、那覇市が目指すまちに向け、目標を掲げ、計画案を策定する作業でした。私自身が行う物事の進め方とは、課題を捻出し、出た課題を一つ一つ、解決していく手法を取っていましたが、今回の市民協働大学院では、自身の異なる手法でもって、練り上げていく作業は、私にとって、良い経験となりました。課題を出し合うのではなく、夢（目標）を掲げ、各々の経験や知識による建設的な意見が飛び交い中、それを一つひとつ積み上げていく作業は、楽しく、ワクワクする有意義な時間を過ごすことができました。

(40代 男性)

Ⅱ 第5次那覇市総合計画市民提案の策定

1 なは市民協働大学院の構成

「協働によるまちづくり」を推進している那覇市においては、これまで各地域・各分野において協働によるまちづくりに意欲のある方を対象に事業を展開し、協働の輪を繋げてまいりました。

市政の周知と市民の育成を目的に、平成21年度には「なは市民大学」を、22年度からは市民大学を発展させた「なは市民協働大学」を開講しています。市民協働大学は、「なは」を知り、好きになることから協働によるまちづくりを学び、受講生間のつながりから、協働によるまちづくりの実践者を増やすことを目的に開催しています。さらに、周囲の人を楽しく巻き込みながら地域でまちづくりコーディネーターとして活躍できる人材や、市政に積極的に関わることができる人材の発掘・育成のため、市民協働大学の上級編として、27年度から「なは市民協働大学院」を開講しました。

第2期となる平成28年度は、第5次那覇市総合計画の策定に向けた市民案の検討を主なテーマとして、次の内容を目的に募集をしました。

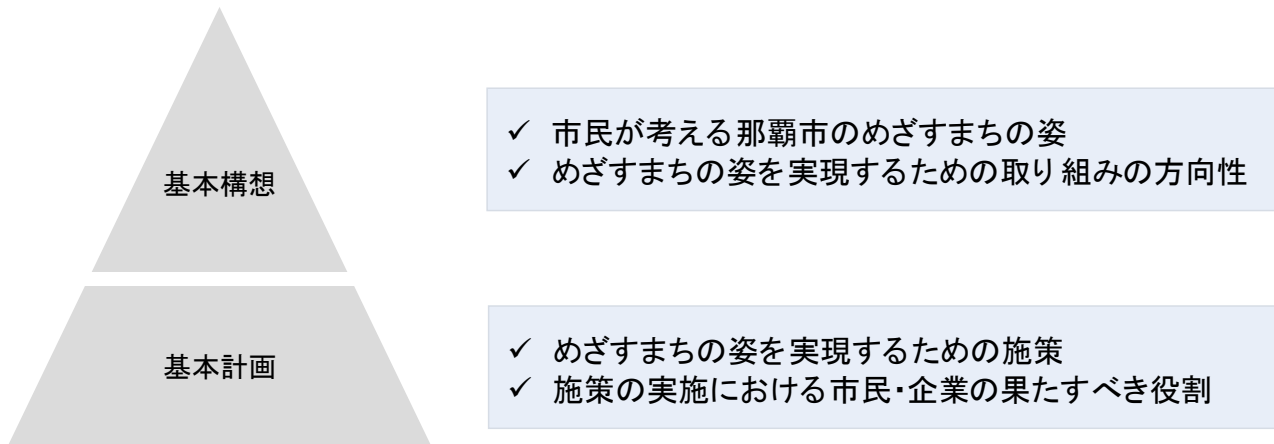
- (1) 協働により、市民の立場で今後の那覇のまちづくりを考え、第5次総合計画の策定に向けた市民案を検討する
- (2) 市民案を検討する過程の中で、目指す「なはのまち」の実現に向けて、すぐにできることを考える

市のホームページや広報にて募集した結果、計29名が受講生となりました（30名の応募者のうち、1名辞退）。年代別の受講生は次の通りです。

年代	人数		
		男	女
30代	8	7	1
40代	7	5	2
50代	8	5	3
60代	5	4	1
70代	1	1	0

2 第5次那覇市総合計画市民提案の構成

第5次那覇市総合計画の「市民提案」は次のような考え方のもと、「市民から那覇市への提言書」として作成しました。



今回の市民提案では、市民目線での問題意識や想い、未来の那覇市への願いを基本構想に集約しました。

また基本計画の検討にあたっては、「市民提案」という特性を最大限に発揮するため、受講生の日頃の活動に由来するアイデアや市民アンケート、企業インタビューから得た示唆をもとに、市民や企業が果たすべき役割を中心にまとめました。

Ⅲ なは市民協働大学院の取り組み概要

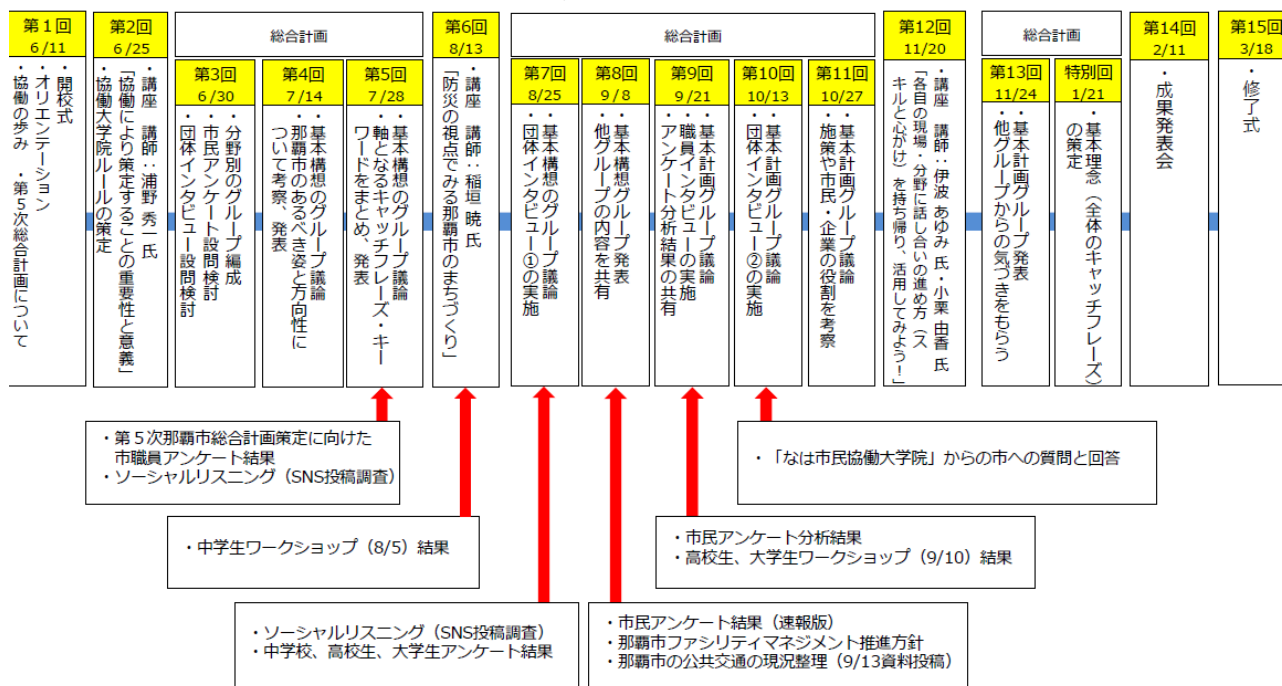
なは市民協働大学院では、平成 28 年 6 月に開講式を行い、約 1 年間の議論を重ね、第 5 次那覇市総合計画の市民提案を策定しました。

議論にあたっては、「自治・協働・防災」「医療・福祉・保健」「子ども・教育・文化」「観光・産業・情報」「環境・都市基盤」の 5 つの部会を立ち上げて、部会ごとに議論を進めていきました。なは市民協働大学院での対面での話合いの他にも、コミュニケーションを活発化するために、SNS（Google グループ）やメールを活用し、資料の配布・共有やオンラインでの意見交換を行いました。

また市民提案に多様な声を反映するために、「内部環境・外部環境分析」「市民アンケート」「団体アンケート」「団体インタビュー」「ソーシャルデータ分析」「中学生ワークショップ」「高校生・大学生ワークショップ」などを実施し、様々な主体の声の収集に努めました。

こうした「多様な声」をインプットに、部会ごとに基本構想（めざすまちの姿）と基本計画（施策と市民の役割）を取りまとめました。

平成28年度 なは市民協働大学院 発表会までの経過



第 5 次那覇市総合計画市民提案策定に関する議論を計 10 回重ねました。次ページより、各回（第 3 回～ 5 回、第 7 回～ 11 回、第 13 回～ 14 回）の経過をまとめます。

第3回（平成28年6月30日）

検討テーマ

- ・ 市民提案策定の目的の共有
- ・ 市民提案の施策検討のインプットとなる、市民アンケート、団体インタビューの実施内容（設問内容）の検討

活動成果

- ・ 総合計画における「市民の役割」（＝施策）を考えるための「市民アンケート」の内容（設問内容）を話し合いました。
- ・ 今後の「なは市民協働大学院」で話し合う内容（施策等）を先取りしたテーマでもあり、時間内での議論は難しかったため、次回までにアイデアをSNS上で出し合うこととしました。
- ・ また次回の検討テーマである「基本構想」について、事務局にて用意したシートを参考に、各自検討してくることになりました。

基本構想策定シート

○このワークシートでは、「基本構想」（＝目指すべき那覇市の将来像と、進むべき方向性）を決めるための要素を洗い出します。
 ○まずは、皆さんが考える各分野の問題意識と、目指すべき姿（どうなれば良いか）を書いてください。
 ○物事の大小、具体・抽象的なものは特に問いません。身近な出来事から連想できることでかまいませんので、なるべく多く書き出してください。

政策分野	小項目	問題意識・課題	どうなれば良いと考えるか（理由も）
自治・協働	- 協働（NPO、ボランティア、自治会など） - 市民への参加 - 人権 - 平和交流 - 男女共同参画社会 - など		
医療・福祉・保健	- 健康づくり - 地域医療 - ユニバーサルデザイン - 地域住民の支えあい - 自立支援 - 障がい者セーフティネット - ワークライフバランス - など		
環境	- 地域環境への配慮（日常生活や企業） - 資源循環型社会 - 自然環境の保全・創造 - 電気の生活環境 - など		
子ども・教育・文化	- 生涯学習 - 地域の教育力 - 子育て支援 - 子どもの権利 - 就学前教育・保育 - 子どもの学習環境 - 青少年の健全育成 - など		
政策分野	小項目	問題意識・課題	どうなれば良いと考えるか（理由も）
観光・産業・情報	- 観光 - 観光産業 - 情報通信産業、電気通信 - 物流・交通（貿易など） - 水辺の活用と交流 - 観光地やマナー活性化 - 就労支援 - 消費生活相談 - など		
医療・福祉・保健	- 災害に強いまちづくり - 地域の防災・交通安全 - 災害時のライフライン - 地域特性を活かした土地利用 - 快適で魅力ある市街地 - 住環境の整備 - 誰もが移動しやすいまち - 自然と調和したまちなみ - など		

この基本構想策定シートを使って、那覇市のめざすまちの姿のアイデアを練ってくることになりました。

振り返り（受講生の声より）

実質的な議論のスタートで、楽しく議論ができたという声があった一方で、ペースが速く、内容が難しい、などの声も聞かれました。

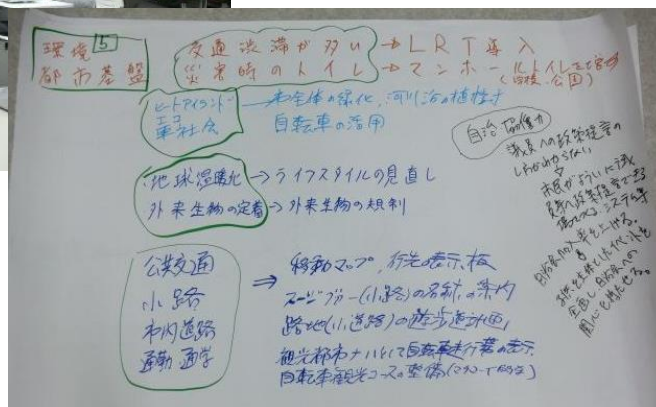
第4回（平成28年7月14日）

検討テーマ

- ・ 市民の視点で基本構想（那覇市のあるべき姿と進むべき方向性）を検討する

活動成果

- ・ 個人で考えてきた基本構想のアイデアをグループワークで話し合い、発表しました。
- ・ 他の部会の意見も聴くことで、今後の基本構想に盛り込むべき意見・アイデアを確認しました。
- ・ 事務局からは、「第4次総合計画で掲げた“めざそう値”の進捗状況」「那覇市78の指標」の説明や、市民に配布するアンケート案の説明がありました。
- ・ 次回に向けて、部会ごとの基本構想のキャッチコピーを検討していただくこととなりました。



那覇市のめざすまちの姿の議論がスタートしました。

振り返り（受講生の声より）

グループワークの時間が足りないという声があったという一方で、他グループの意見も含めて、多様な意見が聞けて良かったという声も聞かれました。

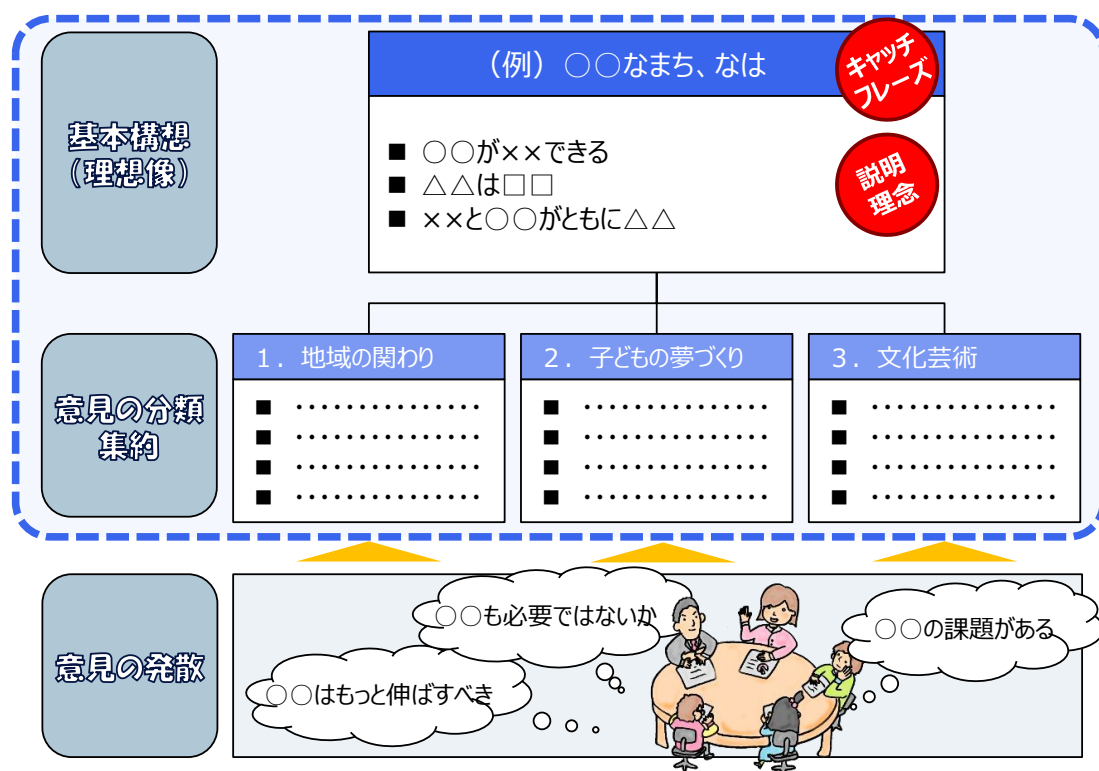
第5回（平成28年7月28日）

検討テーマ

- 市民の視点で基本構想（那覇市のあるべき姿と進むべき方向性）を検討し、グループとして取りまとめる。

活動成果

- 前回に引き続き、基本構想のアイデアをグループワークで話し合い、分野ごとの”キャッチフレーズ”について、グループとして取りまとめを行いました。
- 前回よりグループワークの時間を長くとることで、相互理解も進み、アイデアの具体化もできてきました。



基本構想の取りまとめイメージを共有しました。

振り返り（受講生の声より）

今回もグループワークの時間が足りないという声があったという一方で、議論の深堀も進み、少しずつ具体化してきたという前向きな意見も聞かれました。

第7回（平成28年8月25日）

検討テーマ

- ・ 地域の関係団体と意見交換することで、市民提案に対する示唆を得る。
- ・ 中間発表に向けて、キャッチフレーズとそこにこめられた想いをまとめる。

活動成果

- ・ 「一般社団法人 沖縄しまたて協会様」「一般社団法人 那覇市観光協会様」「地方独立行政法人 那覇市立病院様」「那覇市総務課市民防災室」「那覇市こどもみらい課」をゲストに招いて、市民提案に関する意見交換を行いました。
- ・ 意見交換の結果もふまえながら、中間発表に向けて、部会ごとの基本構想の取りまとめを行いました。

企業・団体インタビュー調査票

以下の質問にご回答をお願いします。本調査票にご回答いただいた内容は、総合計画策定のため
のみに使用します。なお、8月25日（木）に協賛大学校へお送りしますので、記入済みの本
調査票をご持参ください（お預りの場には回収いたします）。

問1 那覇市の交通網や公園等の都市基盤整備について、課題と感じるところをお書きください。
また、都市基盤整備を進めるうえで、参考となる地域や事例があればお書きください。

問2 本市民営では、市民・企業との協働による地域づくりに主眼を置いています。都市計画やま
ちづくりを遂行するうえで、事業者や市民と協働している先進的な事例があればお書きくだ
さい。

問3 那覇市が発展する上で、行政に対する期待や要望がありましたらお書きください。

問4 那覇市が発展する上で、貴団体の果たすべき役割やこれから取り組んでいきたいことにつ
いて、お考えをお書きください。

お忙しいところ、ご回答いただきありがとうございます。

ご回答者

ご連絡先



地域団体と活発な意見交換を行い、市民提案に対する示唆を得ました。

振り返り（受講生の声より）

地域団体との意見交換は非常に参考になった、キャッチフレーズづくりが形になってきた、
などの声が聞かれました。

第9回（平成28年9月21日）

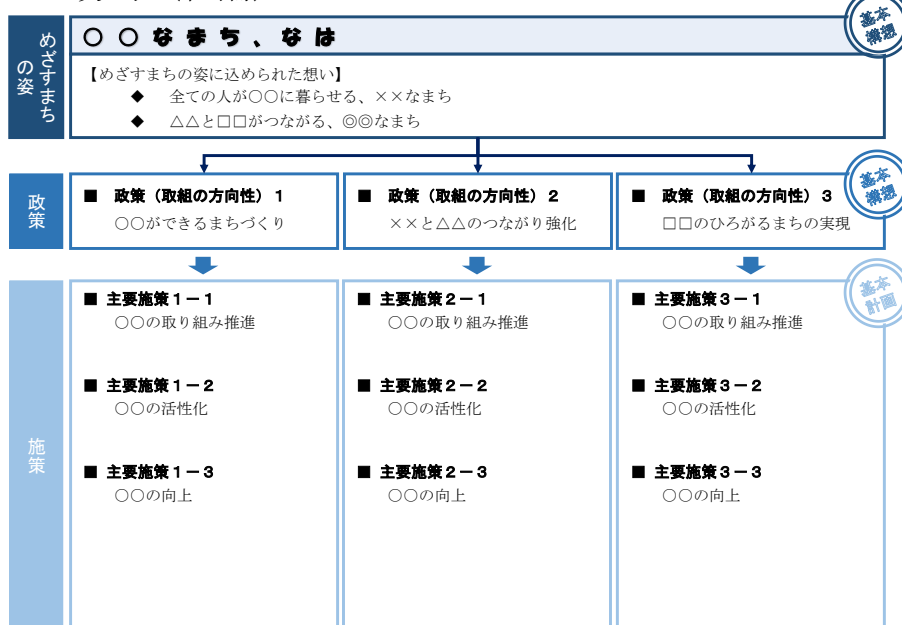
検討テーマ

- 市職員（関連部署の副部長）へのインタビューを通して、基本計画の検討に必要な那覇市の課題を共有する。
- 基本計画検討に向けて、必要なインプット情報を整理する。

活動成果

- 各部会に関係する部署の副部長を囲み、事前に提出していた質問事項を中心にインタビューを実施しました。予定時間を延長してインタビューを継続し、受講生と市の管理職の間で、有意義な意見交換ができました。
- また事務局からは、実施中の市民アンケートの結果報告、ソーシャルリスニングの結果報告、高校生・大学生ワークショップの結果報告についても共有がありました。ソーシャルリスニングについては、新しい試みで、SNS上の「那覇市に対する声」の調査結果が共有されました。
- 残った時間で、基本計画の施策立案に向けて、部会内での意見交換をスタートしました。

〇〇分野（総論）



成果物のイメージを共有し、基本計画の検討をスタートしました。

振り返り（受講生の声より）

副部長インタビューを通じて多くの情報を収集できたという声がある一方で、もっと時間をとってほしい、2回目も実施してほしいなどの声も聞かれました。

第 10 回（平成 28 年 10 月 13 日）

検討テーマ

- ・ 関係団体・企業へのインタビューを通して、基本計画の検討に必要なフィードバック・示唆を得る。

活動成果

- ・ 第 7 回に続いてゲスト（「株式会社 沖縄銀行様」「沖縄セルラー電話株式会社様」「お父 Ring 沖縄様」「新都心通り会様」「地域包括支援センター石嶺様」）を招いて受講生との意見交換を行いました。部会ごとにこれまで検討してきた基本構想（那覇市の「あるべき姿」「ありたい姿」）をゲストに説明し、それに対する示唆をいただきました。
- ・ 新都心通り会様からは、市政 100 周年、ポスト東京五輪、文化・芸術などをキーワードとした、市民提案への提言もいただきました。
- ・ また、事前質問に対する回答を中心に意見交換を行うことで、基本計画を考える上での新たな気づきを得ました。
- ・ インタビュー結果もふまえ、基本計画の施策や市民が果たすべき役割などの、本格的な検討に着手しました。



地域団体・企業と活発な意見交換を行い、市民提案に対する示唆を得ました。

振り返り（受講生の声より）

地域団体・企業のインタビューは非常に勉強になり参考になったという声が多く聞かれました。

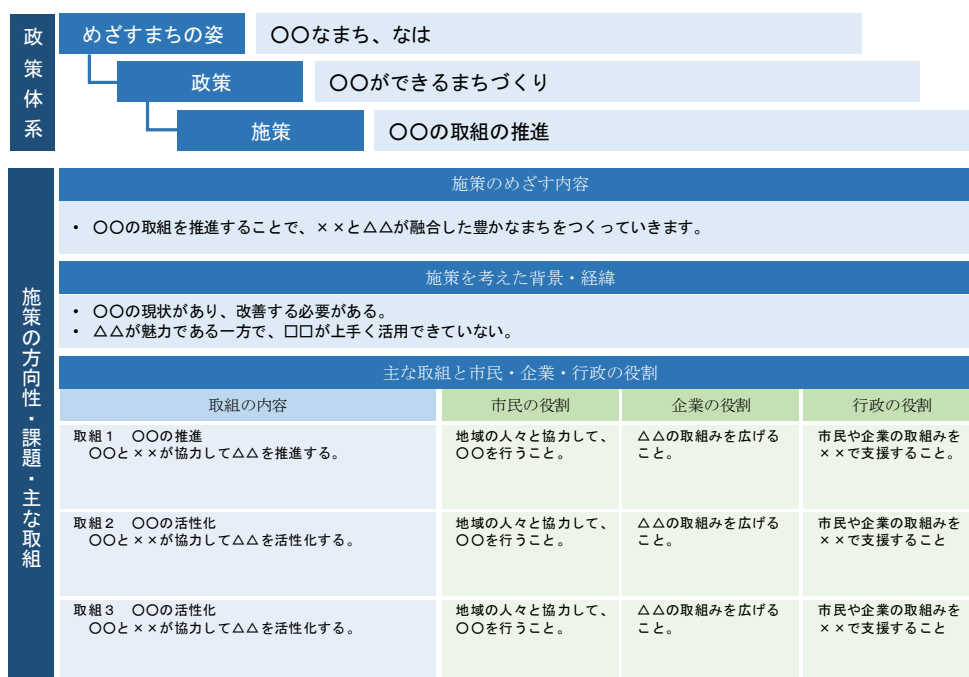
第 11 回（平成 28 年 10 月 27 日）

検討テーマ

- 基本計画の発表に向けて、部会内で施策や市民・企業の役割などについて取りまとめる。

活動成果

- 基本計画の検討フレーム（施策体系図）に沿って、部会内でめざすまちの姿実現のための実施すべき施策や施策推進にあたっての市民や企業の果たすべき役割について検討しました。
- 積み残しについては、次回の発表までに、適宜部会を開催するなどして、取りまとめを進めることになりました。



最終成果物のイメージを共有し、取りまとめを行いました。

振り返り（受講生の声より）

取りまとめ作業の難しさや、見通しが立ってきたことに対する達成感・安堵感などの声が聞かれました。

第13回（平成28年11月24日）

検討テーマ

- ・ 部会ごとに基本構想・基本計画の発表を行い、行政や他の部会からのフィードバックを得る。

活動成果

- ・ 部会ごとに基本構想・基本計画の発表を行い、各発表に対する意見交換を行いました。部会同士の意見交換も活発に行われ、市民提案の全体像が受講生の中でも共有されました。
- ・ また、最終発表に向けては、各部会の基本構想・基本計画に横串を通す「全体キャッチフレーズ」の必要性も議論され、市民広聴終了後に「特別会」を開催することになりました。



協働大学院での発表を行い、これまでの活動を締めくくりました。

振り返り（受講生の声より）

グループ発表を通じて、他のグループの意見をふまえ、改めてグループの内容を見直したいなどの、積極的な意見が聞かれました。また、発表が済んだことによる安堵感の声も聞かれました。

特別開催（平成 29 年 1 月 21 日）

検討テーマ

- ・ 市民提案全体を表現するキャッチフレーズを決定する。

活動成果

- ・ 受講生有志が集合し、それぞれが考える市民提案のキャッチフレーズのアイデアを持ち寄りました。
- ・ キャッチフレーズの検討にあたっては、「対外的なメッセージがいいのか」「市民の想いを共有するものがあるのか」など、様々な意見が出され、取りまとめは難航しました。
- ・ 最終的な取りまとめにあたっては、受講生がファシリテーターを務め、一つの案に集約することができました。



受講生有志が集合し、ファシリテーターも受講生が務め、キャッチフレーズを固めました。

振り返り（受講生の声より）

5グループによるそれぞれのキャッチフレーズを一つにまとめるのは至難の業だと思ったが、最終的にはきれいにまとまり、受講生の持つポテンシャルの高さが証明された瞬間だと思った、という意見が聞かれました。

第 14 回（平成 29 年 2 月 11 日）

検討テーマ

- ・ 協働大学院の成果（第 5 次総合計画市民提案）について、広く市民向けに発表する。

活動成果

- ・ 発表会当日は、多くの市民が来場し、立ち見が出るほどの盛況でした。
- ・ 部会ごとにそれぞれの市民提案の発表を行いました。一部会あたり 10 分と限られた時間だったため、各部会とも、強調する箇所を絞り込んだり、イラストや写真を使うなど、工夫した発表を行いました。
- ・ 発表に対しては、コーディネーターの島田勝也氏から、各部会の発表者に特徴的なキーワードやアイデアに対して、質問が出され、発表者からはその背景やこめられた想いについて回答しました。
- ・ 最後に、受講生の代表が、基本理念（キャッチフレーズ）とそこにこめられた想いを発表しました。
- ・ 総評として、沖縄大学仲地学長より、「市民が総合計画の提案をすることになったこと自体、市民力がついてきた証拠」「第 5 次の次の第 6 次の計画は、市民だけでつくれるようになってほしい」「県都としての風格を持ち、範を示してほしい」などのメッセージをいただきました。
- ・ 最後に、受講生代表から城間市長に市民提案を手交し、「行政で引取り、気概を持って取り組んでいく」というメッセージをいただきました。



振り返り（受講生の声より）

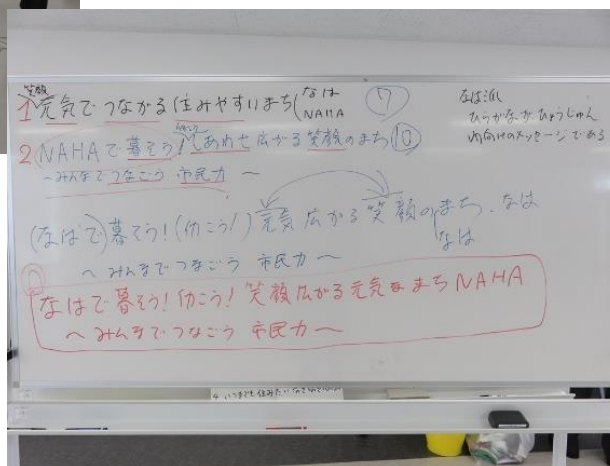
多くの聴衆を前に発表できたことの充足感・達成感の声が聞かれた一方で、市民との意見交換をしたかったという声や、これから PDCA をまわすところにも携わりたいという積極的な意見も聞かれました。

Ⅳ 第5次那覇市総合計画市民提案

平成28年6月から平成29年2月にかけて実施したなは市民協働大学院を通じて策定した「第5次那覇市総合計画市民提案」は次の通りです。

全体キャッチフレーズ

なはで暮そう！働こう！笑顔広がる元気なまちNAHA
～みんなでつなごう市民力～



多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる
大きな「WA」～

「防災・防犯の基礎は自治・協働」
というビジョンを基に10年間かけて
防災・防犯の那覇市を創っていく。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（総論）

めざすまちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

【めざすまちの姿に込められた想い】

「防災・防犯の基礎は自治・協働」というビジョンを基に防災・防犯の那覇市を創る

政策

■政策（取組の方向性）1

多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。

■政策（取組の方向性）2

災害への対応としてまず自助、続いてお隣同士が自然と繋がる近助、平時の備えの賜物である互助、共助、最後に行政による公助、この5つのレベルがある。各レベルを意識して対応策を考えていく。近助とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。

■政策（取組の方向性）3

まずは独自に災害に備えること。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、被害を最小限に抑える。

■政策（取組の方向性）4

自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」（スモールグループ）を再発見していく。

主な施策

■主要施策

- 1-1：災害時における民間企業などの応援協定締結の促進→目標1,000企業！
- 1-2：新防災計画・防災訓練のための防災基金（仮称）を創設する。
- 1-3：台風・高潮・地震等自然災害で被害を受けた場合の公的補償など支援体制の確立
- 1-4：外国人観光客には、同時通訳コールセンター経由で防災情報などを提供できるシステムがある。

■主要施策

- 2-1：災害時の市民全員への情報提供と告知ネットワークづくり
- 2-2：各地域で自主防災組織を発足させ、その活動を支援する。
- 2-3：複合被害や時系列区分による防災を意識した大規模防災訓練を行う
- 2-4：地域主体の地域防災計画を作成する、これを統合したものが市の新防災計画である。既存のものがあるあれば、その視点（積上げ式で作成する）から見直し修正する。

■主要施策

- 3-1：大学や専門機関等と防災協定を結び最先端の知見を得、防災対策に役立てる
- 3-2：専門学校・高校等、県内外の教育・研究と連携し防災授業を組み込む
- 3-3：企業が積極的に街づくりへ参加するインセンティブを持てるような仕組みを確立する
例：税・公共料金・サービス手数料等控除
- 3-4：人件費にも投入できる団体助成金制度（仮称：有償ボランティア基金）を創設する

■主要施策

- 4-1：防犯・防災、あるいは趣味などはっきりした目的を持って集った団体を設定し支援する
- 4-2：（小・中）学区を単位とした人の繋がりを創っていく
- 4-3：ボランティアの登録・人材バンクの登録制度を創設し活用促進する
- 4-4：市は、自治の新しい担い手に対して、積極的に地域の情報を提供し、市は住民の個人情報の取扱について市民と協議しながら作成する

政策1

多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

1: 多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。

施策

1-1: 災害時における民間企業などの応援協定締結の促進→目標1,000企業！

施策の目指す内容

まちづくり（防災）へ、企業の参加を促す。

考えた背景・経緯（課題など）

取組1：防災の主体、国・自治体・企業・市民の役割が明確でない。
取組2、3：複数の県を一つのブロックとして捉えたり、電力・ガス・製造業・物流など産業界を巻き込んだ防災計画が必要である。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組1 防災には国・自治体・企業・市民など、いくつかのレベルがある。この各レベルごとに防災の見直しを行う。	今すぐできる災害への備えをまとめる。その際、自らの役割を明確にしておくこと。	企業は独自に防災対策をまとめる。 その際、自らの強みを織り込んで、役割を明確にしておくこと。	各レベルの防災計画を集め、発災から生活再建までをシミュレーションし、総合的な防災計画をまとめる。
取組2 災害対策のために結ばれた市と企業との <u>支援協定</u> の内容を開示する。	開示された協定を地域の防災計画に織り込む。	自社の災害協定を開示する。	企業と災害協定を積極的に結ぶ。 協定を開示し、周知させる。
取組3 都市部における人の繋がりを発見していく（都市には都市の人のつながりがある）。	身の回りの小さな「わ」（スモールグループ）に自覚的になる→仲間内で防災について考えてみる→仲間内で防災イベントを開催したり、参加してみたりする。 つまり、みんながコミュニティーという備えを持つようにする。	企業間の防災ネットワークを創る。	市民の中に小さな「わ」（スモールグループ）を見つけ、防災・まちづくりの情報を流す（施策4-1参照）。 小さな「わ」をつなげて（防災）ネットワークをつくる。

施策の方向性・課題・主な取組

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

1：多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。

施策

1-2:新防災計画・防災訓練のための防災基金（仮称）を創設する。

施策の目指す内容

市民の間の互助意識を醸成する。「寄付文化」を醸成する。

考えた背景・経緯（課題など）

取組1：市民は自分達で何とかしなければという危機感が薄い。
取組2：公益税制導入して市場から寄付金を調達する。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組1 自治体から独立した、企業や市民等の寄付で <u>防災基金（仮称）</u> の創設。	防災基金（仮称）設立に積極的にかかわる。	防災基金（仮称）設立に中心にかかわる。	（行政の）公的支援と（基金による）民間支援が重ならない様に、基金の設計に協力する。
取組2 <u>公益税制</u> ¹⁾ を導入し基金の原資を集める。 1)：公益税制とは、寄付をした企業が、そのことで税控除が受けられるような制度の事。	議会に働きかけ公益税制のための条例制定を促す。	実行性のある公益税制確立のために、寄付する側から制度設計に協力する。	公益税制導入する。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

1: 多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。

施策

1-3: 台風・高潮・地震等自然災害で被害を受けた場合の公的補償など支援体制の確立。

施策の目指す内容

公的支援対象外の被災者を救済する。

考えた背景・経緯（課題など）

取組 1：災害で住宅が損壊を受けた場合、従来の住宅再建支援制度に基づく公的支援では行届かない被災者（一部損壊など）が出てくる。住宅復旧は被災地復興の要であるため、住宅復旧のための融資制度の充実が必要。
取組 2：民間保険のノウハウを導入する。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 自然災害に際し、公的支援の対象にならない被災者を救済できる仕組みを創設する。	1-2の基金の利用を検討する。	1-2の基金の利用を検討する。	現行の公的支援制度では、支援が行き届かなくなる被災状況を抽出し、支援がそへ行き届く仕組みづくりに取り組む。
取組 2 民間の災害保険も合わせて検討する。	（自動車の強制保険のように）住民全員が災害保険に加入する。	低価格の災害補償保険商品の開発を民間保険企業に促す。	低価格の災害補償保険商品の開発を民間保険企業に促す。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

政策

施策

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

1: 多様な人の参加により、小さな「わ」が繋がって大きくなる。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。

1-4: 外国人観光客には、同時通訳コールセンター経由で防災情報などを提供できるシステムがある。

施策の目指す内容

災害弱者（外国人）への対応。

考えた背景・経緯（課題など）

外国人観光客を誘客するためにも災害時の安全対策を準備しておく必要がある。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容

取組 1

避難誘導に対応して翻訳機能付きメガホン等、翻訳機器が必要になる。

取組 2

災害時に言葉が通じない外国人が情報を得る場所として、コールセンター、伝言板ダイヤル、伝言板を立ち上げる。またあらたな仕組みとして「外国人シェルター（仮称）」を設定、認定し、これを有する施設を増やしていく。

市民の役割

外国人が情報を得られる場所を知っておく。

企業の役割

翻訳機能付きメガホン等、翻訳機器の開発。

観光業界は他の観光地での災害時の外国人対応の取り組みを行政に提供する。
大手のホテルは、「外国人シェルター（仮称）」を積極的に立ち上げ、認定を受けるよう努める。

行政の役割

翻訳機器の情報を集める。
翻訳機器の開発を企業に促す（補助金）。

外国人用のコールセンター、伝言板ダイヤル、伝言板を立ち上げる。
災害時に言葉が通じない外国人が情報を得る場所として新たに「外国人シェルター（仮称）」を定義し、基準を設定し、認定していく。

施策の方向性・課題・主な取組

政策2

災害への対応としてまず自助、続いてお隣同士が自然と繋がる近助、平時の備えの賜物である互助、共助、最後に行政による公助、この5つのレベルがある。各レベルを意識して対応策を考えていく。

近助とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。

自治・協働・防災・防犯 男女共画・人権・平和		分野（各論）
政策体系	めざす まちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～
	政策	2: 災害への対応としてまず自助、続いてお隣同士が自然と繋がる近助、平時の備えの賜物である互助、共助、最後に行政による公助、この5つのレベルがある。各レベルを意識して対応策を考えていく。 近助とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。
	施策	2-1: 災害時の市民全員への情報提供と告知ネットワークづくり。
施策の方向性・課題・主な取組	施策の目指す内容	
	正確な情報でまず自助、おせっかいを焼いて近助、みんなで備えて互助と共助、最後に計画性のある行政の公助！	
	考えた背景・経緯（課題など）	
	取組1：災害時には、迅速・的確な状況の把握と情報の伝達が生死を決する。 取組2：市民の防災意識と防災知識は十分でないで平時における啓発活動が重要。 取組3：参照：東京防災。地域別のハザードマップ・防災冊子・パンフ等を製作する必要がある。	
	主な取組と市民・企業・行政の役割	
	取組の内容	市民の役割
	取組1 災害時、情報の周知には個人携帯がもつとも有用であるため、まずこの携帯電話（スマホ）システムを温存、利用することを考える。同時に防災行政無線、マスコミの通じての災害情報伝達経路の確立を考える。	近助確立のために携帯電話が使えない人のために、口頭から口頭への情報伝達網を確立しておく。安否情報の発信方法を平時に確立しておく。災害情報サービスに登録する。
	取組2 複合被害が疑似体験できるシミュレーション動画（例：津波に襲われた那覇市3D映像）を製作し、発信する。	自助確立のために、3D画像で災害知識の向上させる。
	取組3 那覇市防災冊子を製作し、全住民に配布する	自助確立のために、災害冊子で災害知識の向上させる。
		企業の役割
		行政の役割

自治・協働・防災・防犯 男女共画・人権・平和		分野（各論）
政策体系	めざす まちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～
	政策	2: 災害への対応としてまず自助、続いてお隣同士が自然と繋がる近助、平時の備えの賜物である互助、共助、最後に行政による公助、この5つのレベルがある。各レベルを意識して対応策を考えていく。 近助とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。
	施策	2-2: 各地域で自主防災組織を発足させ、その活動を支援する。
施策の方向性・課題・主な取組	施策の目指す内容	
	個人情報の壁を突破する。	
	考えた背景・経緯（課題など）	
	災害を未然に防ぐために地域の防災力（互助の力）を高める。	
	主な取組と市民・企業・行政の役割	
	取組の内容	市民の役割
	取組1 各地域に自主防災組織を発足させる。この組織は、互助レベルにおける市民側の主体となる。	自主防災組織を結成する。組織は、発災から数日間は外部からの援助なしで存続できるように、計画を立て訓練しておく。
	取組2 平時に地域住民の名簿を作成しておく。	名簿には積極的に登録する。名簿の管理者を決めておく。
	取組3 災害ボランティアチームを編成しておく。	災害ボランティア活動に事前登録する。
		企業の役割
		行政の役割

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

2:災害への対応としてまず自助、続いてお隣同士が自然と繋がる近助、平時の備えの賜物である互助、共助、最後に行政による公助、この5つのレベルがある。各レベルを意識して対応策を考えていく。
近助とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。

施策

2-3: 複合被害や時系列区分による防災を意識した大規模防災訓練を行う。

施策の目指す内容

公助の確立のための大規模防災訓練。

考えた背景・経緯（課題など）

取組1：救助活動は公的なセクター（警察・消防、医療機関、あるいは自衛隊など）が連携してはじめてうまく展開する。
取組2：救援物資供給路の確保、避難所における仮設トイレ設置・食品等の衛生管理、感染症予防などは自治体間の協力が必要である。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組1 災害時の広域行政連携網の確立。		広域行政連携網の中には企業、港、空港、自衛隊、米軍なども含まれる。	那覇市を中心に縦（市一県・九州一国）のネットワークと横（隣接市町村、企業）のネットワークを形成する。このネットワークは大規模防災訓練時に市民に可視化される。
取組2 県独自に「防災の日」を制定し、この日に大規模防災訓練を行う。	「防災の日」制定を市議会、県議会に陳情請願する。 市民は地域自主防災組織が企画した地域訓練に参加する。この時、市民は自分の役割を良く考えながら訓練に参加する。	防災訓練に参加する。所属している組織、結んでいる協定のなかで自社の役割を明確にしておく。	防災の日（日曜）制定を県に働きかける。 議会に提案する。

自治・協働・防災・防犯 男女共画・人権・平和		分野（各論）	
政策体系	めざす まちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～	
	政策	2:災害への対応としてまず自助、続いてお隣同士が自然と繋がる近助、平時の備えの賜物である互助、共助、最後に行政による公助、この5つのレベルがある。各レベルを意識した対応策を考えていく。 近助とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。	
	施策	2-4: 地域主体の地域防災計画を作成する、これを統合したものが市の新防災計画である。既存のものがあれば、その視点（積み上げ式に作成する）から見直し修正する。	
	施策の目指す内容		
施策の方向性・課題・主な取組	機能する防災計画を立てる。		
	考えた背景・経緯（課題など）		
	災害時に機能する防災計画であるかどうかは平時に常にチェックしておく必要がある。		
	主な取組と市民・企業・行政の役割		
	取組の内容	市民の役割	企業の役割
取組1 災害時に機能する新防災計画をつくる。そのためには各地域の意見を汲みとって、積み上げ式に計画を立てる。	今すぐそして個々にできることをまとめ、それを総合して地域防災計画にまとめる。	企業の災害対策をまとめ、地域防災計画に反映（自社の役割の明確化）させる。	地域防災計画は地域が自由につくるのが原則であるが、統一性を持たせるため、最小限の形式、チェックポイントを行政側で決めておく。その際、専門家に協力を仰ぐ。

政策3

まずは独自に災害に備えること。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、被害を最小限に抑える。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

政策

施策

3: まずは独自に災害に備えること。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、被害を最小限に抑える。

3-1: 大学や専門機関等と防災協定を結び最先端の知見を得、防災対策に役立てる。

施策の目指す内容

防災教育の確立と普及。

考えた背景・経緯（課題など）

災害は時系列的に、発災時、自主避難3日まで、1カ月までの長期避難、それ以後の復興期間と4期が想定される。時期にあわせた対応を研究し、防災力を高める必要がある。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 独自に備える。独自に防災に関する知識を蓄える。	防災教育を積極的に受け、防災知識、防災意識を高める。	防災教育を積極的に受け、災害時における企業の役割を考え、その体制を整える。	防災教育として、防災トレーニングプログラムを作る。 災害机上訓練等、誰でも参加できるプログラムを作る。 ディスカッションの場を作っていく。
取組 2 防災の専門家（大学人や研究機関の人材）の知識を個人、地域に還元する。	災害に対する自分の地域の弱さを知り、防災計画に盛り込む。	災害に対する自分の地域の弱さを知り、防災計画に盛り込む。	新たな尺度で地域の災害危険度をまとめ、発信する。 参照：総合危険度（東京防災11p）
取組 3 学校の総合学習で災害教育を行う。	学校での災害学習には地域の人も参加する。		学校の総合学習で災害教育を行う。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

3: まずは独自に災害に備えること。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、被害を最小限に抑える。

施策

3-2: 専門学校・高校等、県内外の教育・研究と連携し防災授業を組み込む。

施策の方向性・課題・主な取組

施策の目指す内容

つなげることができる人＝コーディネーターを育成していく。

考えた背景・経緯（課題など）

市民の防災意識と防災知識は充分ではないので、災害学習が必要である。そのきっかけとして、災害の疑似体験は有効であるとする。視覚に訴えるシミュレーター（例：津波に襲われた那覇市3D映像）導入で臨場感ある災害学習が得られる。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 那覇市全体の正確な模型を造り、防潮堤を超える津波など、各災害の発生を実演する。	体験学習の場に参加する。	体験学習の場づくりに協力し、参加する。	防災トレーニングプログラム（3-1）に、疑似体験学習を組み入れる。
取組 2 防災の知識に長じ、関連機関をつなげることで地域の防災計画づくりを主導できる地域防災コーディネーターを育成していく。			防災教育を通して地域防災コーディネーターを育成する。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

政策

施策

3: まずは独自に災害に備えること。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、被害を最小限に抑える。

3-3: 企業が積極的に街づくりへ参加するインセンティブを持てるような仕組みを確立する。
例. 税・公共料金・サービス手数料等控除

施策の方向性・課題・主な取組

施策の目指す内容

考えた背景・経緯（課題など）

取組1：企業の積極的参加を促す一貫した仕組みがない。
取組2：防災協定を締結した企業は公表され、市民に分かるようする。
取組3：税や公共料金等の控除は企業にとって参加の強力なインセンティブであろう。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組1 企業が積極的に街づくりへ参加する仕組みを創設する。	企業を組み込んだコミュニティを想定する。	まちづくりに参加する。	これまでのまちづくり参加企業への対応を見直し、参加のための新たな戦略を立てる。
取組2 <u>防災協定</u> を締結した企業には認定書を発行する。	地域の協定企業を知り、地域防災計画に取り込む。	行政と協定を結ぶ。 協定企業は地域防災計画に参加する。	認定書（ステッカー）を発行する。
取組3 街づくりに参加した企業は、税や公共料金等の控除が得られることにより更に、参加が促される。			まちづくり参加企業優遇制度を確立する。 例： <u>公益税制導入・公共料金減額など</u> （1-2取組2を参照）

自治・協働・防災・防犯 男女共画・人権・平和		分野（各論）	
政策体系	めざす まちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～	
	政策	3. まずは独自に災害に備えること。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、被害を最小限に抑える。	
	施策	3-4: 人件費にも投入できる団体助成金制度(仮称:有償ボランティア基金)を創設する。	
施策の方向性・課題・主な取組	施策の目指す内容		
	行政のまちづくり団体への支援（助成金）のあり方を考える。		
	考えた背景・経緯（課題など）		
	団体の活動を維持させるためには経済的安定が必要。現行の助成制度は人件費に投入出来ない等縛りが多く、利用しづらい。		
	主な取組と市民・企業・行政の役割		
	取組の内容	市民の役割	企業の役割
取組1 まちづくり団体への助成金のあり方を議論する委員会を立ち上げる。	委員会に参加する。	委員会に参加する。	委員会を立ち上げる。 (現行の補助金の問題点:単年度制、用途制限、申請手続き、決算報告、効果判定など)
取組2 人件費にも投入できる団体助成金制度を創設する。			人件費等にも投入できる団体助成金制度を創設する。

政策4
自治の新しい担い手を育成する。
すでにある小さな「わ」(スモールグループ)を再発見していく。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

4: 自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」(スモールグループ)を再発見していく。

施策

4-1: 防犯・防災、あるいは趣味などはっきりした目的を持って集った団体を設定し支援する。

施策の方向性・課題・主な取組

施策の目指す内容

仲間に参加できる仕組み。

考えた背景・経緯（課題など）

那覇市にはすでに小さな人の繋がりが無数にある。なのでこれを活かすことを考える。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 実際に活動している小さな「わ」（スモールグループ）を発見し認定していく。	趣味のサークル等、活動しているスモールグループは、自主的に手を上げていく。		小さな「わ」（スモールグループ）を発見し認定していく。それらを繋げていくこと（大きな「WA」）を考える。

自治・協働・防災・防犯 男女共画・人権・平和		分野（各論）	
政策体系	めざす まちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～	
	政策	4:自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」(スモールグループ)を再発見していく。	
	施策	4-2:(小・中)学区を単位とした人の繋がりを創っていく。	
	施策の目指す内容		
施策の方向性・課題・主な取組	地域で参加できる仕組み。		
	考えた背景・経緯（課題など）		
	すでに那覇市には小学校区まちづくり協議会を立ち上げている。これを全市的に広げていく。		
	主な取組と市民・企業・行政の役割		
	取組の内容	市民の役割	企業の役割
取組1 小中学校区を単位とした人の繋がりを創っていく。 小中学校区まちづくり協議会を、全学校区で立ち上げる。	参加する。	参加する。	学校区協議会事業をさらに進めていく。 学校は地域に開放される。協議会は最終的に自立する。

自治・協働・防災・防犯 男女共画・人権・平和		分野（各論）		
政策体系	めざす まちの姿	多様なつながりで共に助け合う ～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～		
	政策	4: 自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」(スモールグループ)を再発見していく。		
	施策	4-3: ボランティアの登録・人材バンクの登録制度を創設し活用促進する。		
施策の方向性・課題・主な取組	施策の目指す内容			
	個人で参加できる仕組みーボランティア人材バンク。			
	考えた背景・経緯（課題など）			
	ボランティアに参加したいが、どこにいけば、そして何すればいいのか解らないという意見がある。また個人の積極的参加を促す一貫した仕組みがない。			
	主な取組と市民・企業・行政の役割			
	取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
	取組 1 ボランティア人材バンクの創設、ボランティアしたい人はここに登録され、ボランティアが必要な現場が紹介される	人材バンクに登録し、参加する。	人材バンクに登録し、参加する。	ボランティア人材バンクを創設し、活用促進する。

自治・協働・防災・防犯
男女共画・人権・平和

分野（各論）

めざす
まちの姿

多様なつながりで共に助け合う
～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～

政策

4:自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」(スモールグループ)を再発見していく。

施策

4-4:市は、自治の新しい担い手に対して、積極的に地域の情報を提供する。市は住民の個人情報の取扱について市民と協議しながら作成する。

施策の目指す内容

新住民が参加できる仕組み。
10年かけて適正な個人情報保護運用を市民・企業・行政で合意を得る。

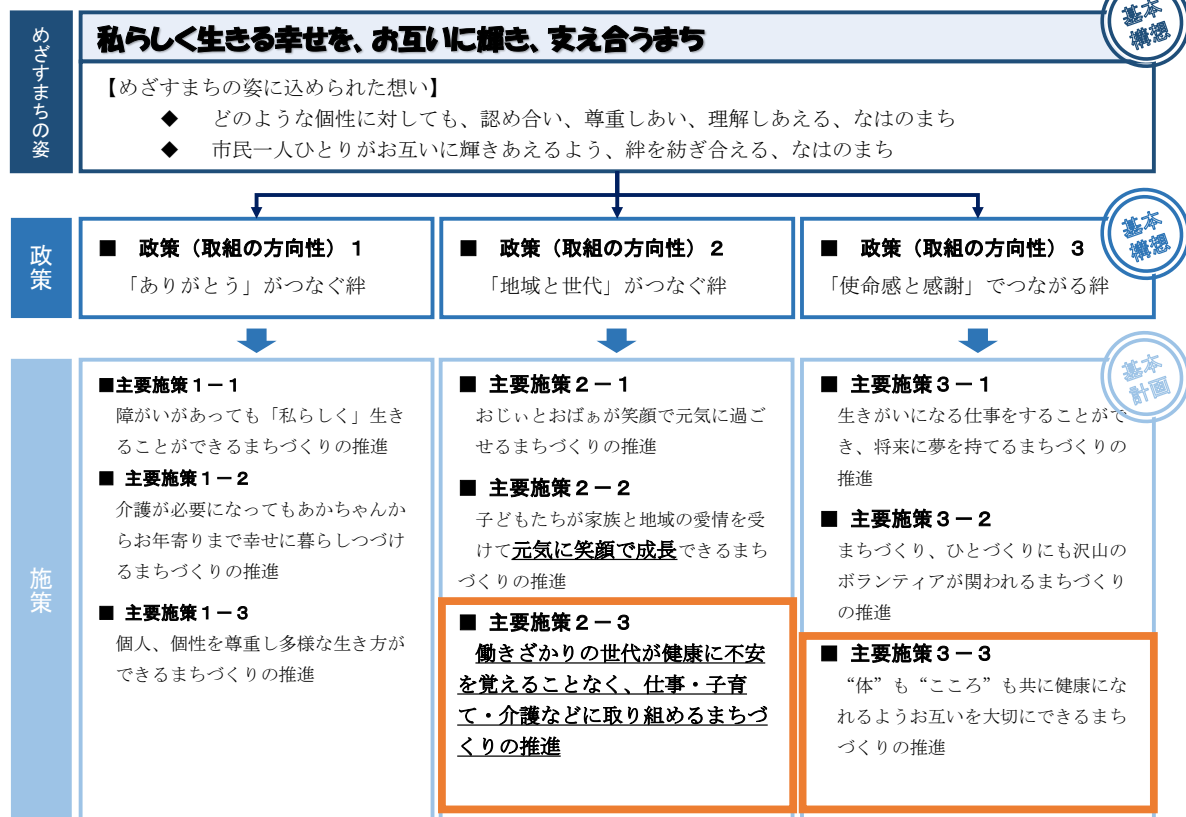
考えた背景・経緯（課題など）

取組 1：個人情報保護は時として人の繋がりへの壁となる。個人情報への理解が各人各様であることがその大きな理由であると考えている。
取組 2：新住民(外国人を含む)は既に多く住んでいる。新住民に対する偏見は排他的な人の繋がりを生み対立へと人を導く、人の対立があると治安が悪くなる。これを避けるため、お互いを知る機会を普段から持っておくことが大切である。

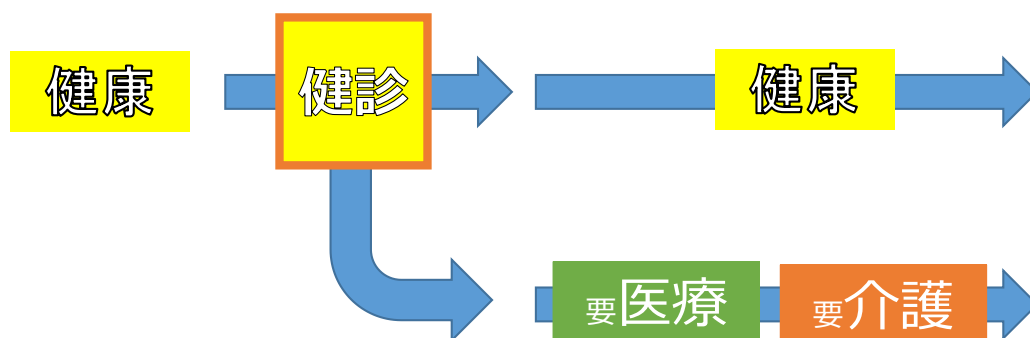
主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 市は住民の個人情報の取扱について市民と協議しながら作成する。	議論に参加する。	議論に参加する。	個人情報は取扱に注意ではあるが、長期的には（制限あり）オープンにしていく方針をとる。
取組 2 災害時の支援協定の開示新住民(外国人を含む)は新しい自治の担い手である。新住民が地域と繋がりが持てる仕組みづくり。	参加、協力する。	参加、協力する。	新住民が地域と繋がりが持てる仕組みをつくる。
取組 3 地域の情報収集の手段として防災アンケートを用いる。	自主防災組織を結成したら、地域の防災アンケート（手段）を取り、回収、収集して地域の情報を地域で共有する。	防災アンケートに協力する。	防災アンケートは、行政の名で施行する。最小限の形式、チェックポイントを行政側で決めておく。その際、専門家に協力を仰ぐ。

福祉・健康・医療・分野（総論）



健康であり続けるためには・・・



まずは健診を受けることから！！

福祉・健康・医療・分野（各論）

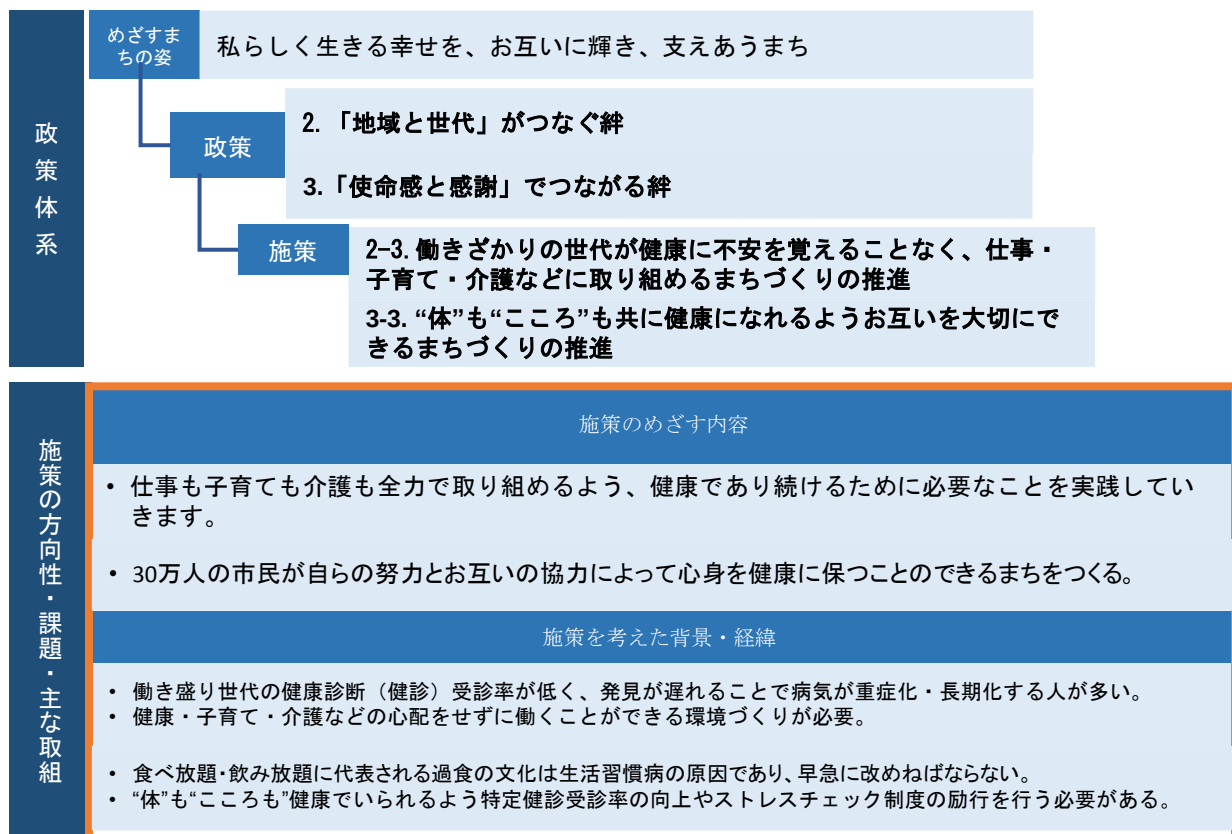
政策体系	めざすま ちの姿	私らしく生きる幸せを、お互いに輝き、支えあうまち																
	政策	2. 「地域と世代」がつなぐ絆																
	施策	2-3. 働きざかりの世代が健康に不安を覚えることなく、仕事・子育て・介護などに取り組めるまちづくりの推進																
	施策の方向性・課題・主な取組	施策のめざす内容 - 仕事も子育ても介護も全力で取り組めるよう、健康であり続けるために必要なことを実践していきます。 施策を考えた背景・経緯 - 働き盛り世代の健康診断（健診）受診率が低く、発見が遅れることで病気が重症化・長期化する人が多い。 - 健康・子育て・介護などの心配をせずに働くことができる環境づくりが必要。 主な取組と市民・企業・行政の役割 <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の内容</th><th>市民の役割</th><th>企業の役割</th><th>行政の役割</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取組1 働き盛りの市民が元気で笑顔でいられる健康診断システムづくり</td><td>1年に1回健康診断を受ける。 検査結果について家族で共有する。</td><td>社員とその家族に1年に1回健康診断を受けさせる。 店舗等での健診実施。</td><td>「健康診断受診ポイント制度」の実施・拡充。 新たな健診機会を創出する。</td></tr> <tr> <td>取組2 身近な血液検査としての『献血』の推進</td><td>献血をする。 血液検査の結果をきちんと見る。</td><td>社員の社会貢献活動の一環として献血を推進する。 店舗等での献血実施。</td><td>赤十字（血液センター）と連携して、イベント会場での実施など献血機会を創出する。</td></tr> <tr> <td>取組3 地域イベントにおいて健康づくりを意識した企画を取り入れるなど、地域住民全員で健康になる意識を醸成する。</td><td>自らの持つスキルやアイデアを活かした地域イベントを企画し、参加する。</td><td>地域イベントへ企業として参加する。 社員の参加を奨励する。</td><td>健康づくりへの地域の努力に応じた様々な支援を行う。</td></tr> </tbody> </table>		取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割	取組1 働き盛りの市民が元気で笑顔でいられる健康診断システムづくり	1年に1回健康診断を受ける。 検査結果について家族で共有する。	社員とその家族に1年に1回健康診断を受けさせる。 店舗等での健診実施。	「健康診断受診ポイント制度」の実施・拡充。 新たな健診機会を創出する。	取組2 身近な血液検査としての『献血』の推進	献血をする。 血液検査の結果をきちんと見る。	社員の社会貢献活動の一環として献血を推進する。 店舗等での献血実施。	赤十字（血液センター）と連携して、イベント会場での実施など献血機会を創出する。	取組3 地域イベントにおいて健康づくりを意識した企画を取り入れるなど、地域住民全員で健康になる意識を醸成する。	自らの持つスキルやアイデアを活かした地域イベントを企画し、参加する。	地域イベントへ企業として参加する。 社員の参加を奨励する。
取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割															
取組1 働き盛りの市民が元気で笑顔でいられる健康診断システムづくり	1年に1回健康診断を受ける。 検査結果について家族で共有する。	社員とその家族に1年に1回健康診断を受けさせる。 店舗等での健診実施。	「健康診断受診ポイント制度」の実施・拡充。 新たな健診機会を創出する。															
取組2 身近な血液検査としての『献血』の推進	献血をする。 血液検査の結果をきちんと見る。	社員の社会貢献活動の一環として献血を推進する。 店舗等での献血実施。	赤十字（血液センター）と連携して、イベント会場での実施など献血機会を創出する。															
取組3 地域イベントにおいて健康づくりを意識した企画を取り入れるなど、地域住民全員で健康になる意識を醸成する。	自らの持つスキルやアイデアを活かした地域イベントを企画し、参加する。	地域イベントへ企業として参加する。 社員の参加を奨励する。	健康づくりへの地域の努力に応じた様々な支援を行う。															

医療・福祉・保健

福祉・健康・医療・分野（各論）

政策体系	めざすま ちの姿	私らしく生きる幸せを、お互いに輝き、支えあうまち																
	政策	3. 「使命感と感謝」でつながる絆																
	施策	3-3. “体”も“こころ”も共に健康になれるようお互いを大切にできるまちづくりの推進																
	施策の方向性・課題・主な取組	施策のめざす内容 30万人の市民が自らの努力とお互いの協力によって心身を健康に保つことのできるまちをつくる。 施策を考えた背景・経緯 - 食べ放題・飲み放題に代表される過食の文化は生活習慣病の原因であり、早急に改めねばならない。 “体”も“こころ”も健康でいられるよう特定健診受診率の向上やストレスチェック制度の励行を行う必要がある。 主な取組と市民・企業・行政の役割 <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の内容</th><th>市民の役割</th><th>企業の役割</th><th>行政の役割</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取組1 「メンタルヘルスケア」の充実 「健康な21」の推進による家庭や職場でのより良いコミュニケーションの充実と制度理解の啓蒙。</td><td>7つの健康習慣（禁煙、運動、適正飲酒、睡眠、体重維持、朝食、間食禁止）の励行。</td><td>職場におけるメンタルヘルスケアチェックの導入と働きやすい環境づくり。</td><td>制度の励行、啓蒙活動と制度への援助。</td></tr> <tr> <td>取組2 特定健診受診率の向上と予防 生活習慣病の予防・改善するため、また那覇市に限らず、沖縄県全体の課題となっている肥満予防の推進を図る。</td><td>特定健診の理解と制度の活用（受診） 飲酒文化の改善（量・回数・時間など）。</td><td>職員の健康診断実施 「那覇市がんばる職場の健康チャレンジ」参加など。</td><td>市民に対する特定健診受診の啓蒙活動 健康づくり応援システム(助成)の継続活用</td></tr> <tr> <td>取組3 「食事」の持つ意味と力を再認識する 「量から質」への意識の転換と、家庭などにおけるコミュニケーションツールとしての位置づけを図り、将来の健康に繋がるような食文化を育てる。</td><td>食べ放題・飲み放題の自粛。 家庭・職場・地域での「共食」の推進。</td><td>食べ放題・飲み放題に代わる選択肢の提案。 社員が食事の時間を家族と過ごせるよう取り組む。</td><td>「健康づくり協力店」制度の継続と発展。 食品・飲食業界と協力し、食品に含まれる塩分量を段階的に減らす。</td></tr> </tbody> </table>		取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割	取組1 「メンタルヘルスケア」の充実 「健康な21」の推進による家庭や職場でのより良いコミュニケーションの充実と制度理解の啓蒙。	7つの健康習慣（禁煙、運動、適正飲酒、睡眠、体重維持、朝食、間食禁止）の励行。	職場におけるメンタルヘルスケアチェックの導入と働きやすい環境づくり。	制度の励行、啓蒙活動と制度への援助。	取組2 特定健診受診率の向上と予防 生活習慣病の予防・改善するため、また那覇市に限らず、沖縄県全体の課題となっている肥満予防の推進を図る。	特定健診の理解と制度の活用（受診） 飲酒文化の改善（量・回数・時間など）。	職員の健康診断実施 「那覇市がんばる職場の健康チャレンジ」参加など。	市民に対する特定健診受診の啓蒙活動 健康づくり応援システム(助成)の継続活用	取組3 「食事」の持つ意味と力を再認識する 「量から質」への意識の転換と、家庭などにおけるコミュニケーションツールとしての位置づけを図り、将来の健康に繋がるような食文化を育てる。	食べ放題・飲み放題の自粛。 家庭・職場・地域での「共食」の推進。	食べ放題・飲み放題に代わる選択肢の提案。 社員が食事の時間を家族と過ごせるよう取り組む。
取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割															
取組1 「メンタルヘルスケア」の充実 「健康な21」の推進による家庭や職場でのより良いコミュニケーションの充実と制度理解の啓蒙。	7つの健康習慣（禁煙、運動、適正飲酒、睡眠、体重維持、朝食、間食禁止）の励行。	職場におけるメンタルヘルスケアチェックの導入と働きやすい環境づくり。	制度の励行、啓蒙活動と制度への援助。															
取組2 特定健診受診率の向上と予防 生活習慣病の予防・改善するため、また那覇市に限らず、沖縄県全体の課題となっている肥満予防の推進を図る。	特定健診の理解と制度の活用（受診） 飲酒文化の改善（量・回数・時間など）。	職員の健康診断実施 「那覇市がんばる職場の健康チャレンジ」参加など。	市民に対する特定健診受診の啓蒙活動 健康づくり応援システム(助成)の継続活用															
取組3 「食事」の持つ意味と力を再認識する 「量から質」への意識の転換と、家庭などにおけるコミュニケーションツールとしての位置づけを図り、将来の健康に繋がるような食文化を育てる。	食べ放題・飲み放題の自粛。 家庭・職場・地域での「共食」の推進。	食べ放題・飲み放題に代わる選択肢の提案。 社員が食事の時間を家族と過ごせるよう取り組む。	「健康づくり協力店」制度の継続と発展。 食品・飲食業界と協力し、食品に含まれる塩分量を段階的に減らす。															

福祉・健康・医療・分野（各論）



主な取組と市民・企業・行政の役割	
取組の内容	
取組 1 2-2 働き盛りの市民が元気で笑顔でいられる健康診断システムづくり	
取組 1 3-3 「メンタルヘルスケア」の充実「健康なは21」の推進による家庭や職場でのより良いコミュニケーションの充実と制度理解の啓蒙。	
市民の役割	
1年に1回健康診断を受ける。検査結果について家族で共有する。	
7つの健康習慣 （禁煙、運動、適正飲酒、睡眠、体重維持、朝食、間食禁止）の励行。	
企業の役割	
社員とその家族に1年に1回健康診断を受けさせる。店舗等での健診実施。	
職場におけるメンタルヘルスケアチェックの導入と働きやすい環境づくり。	
行政の役割	
「健康診断受診ポイント制度」の実施・拡充。新たな健診機会を創出する。	
制度の励行、啓蒙活動と制度への援助。	

主な取組と市民・企業・行政の役割
取組の内容
取組 2 ₂₋₂ 身近な血液検査としての『献血』の推進
取組 2 ₃₋₃ 特定健診受診率の向上と予防生活習慣病の予防・改善するため、また那覇市に限らず、沖縄県全体の課題となっている肥満予防の推進を図る。
市民の役割
献血をする。 血液検査の結果をきちんと見る。⇒保健指導を受けて、現在の健康状況把握 特定健診の理解と制度の活用（受診）飲酒文化の改善（量・回数・時間等）
企業の役割
社員の社会貢献活動の一環として献血を推進する。店舗等での献血実施。 職員の健康診断実施 「那覇市がんばる職場の健康チャレンジ」参加など。
行政の役割
赤十字（血液センター）と連携して、イベント会場での実施など献血機会を創出する。 市民に対する特定健診受診の啓蒙活動 健康づくり応援システム(助成)の継続活用

主な取組と市民・企業・行政の役割
取組の内容
取組 3 ₂₋₃ 地域イベントにおいて健康づくりを意識した企画を取り入れる等、地域住民全員で健康になる意識を醸成する。
取組 3 ₃₋₃ 「食事」の持つ意味と力を再認識する「量から質」への意識の転換と、家庭などにおけるコミュニケーションツールとしての位置づけを図り、将来の健康に繋がるような食文化を育てる。
市民の役割
自らの持つスキルやアイデアを活かした地域イベントを企画し、参加する。 食べ放題・飲み放題の自粛。家庭・職場・地域での「共食」の推進。
企業の役割
地域イベントへ企業として参加する。社員の参加を奨励する。 食べ放題・飲み放題に代わる選択肢の提案。 社員が食事の時間を家族と過ごせるよう取り組む
行政の役割
健康づくりへの地域の努力に応じた様々な支援を行う。 「健康づくり協力店」制度の継続と発展。 食品・飲食業界と協力し、食品に含まれる塩分量を段階的に減らす。

提言 まとめ

20～39歳の若年層は、年に一度へ検診を受けましょう。

* 誕生日の月は、検診や献血に行きましょう

* 働き盛りや子育て育メンパパは、新生・幼児検診時に
血液検査と尿検査を受けましょう

40～74歳の方は、通院時(持病)のかかりつけ病院で、

* 誕生日の月は、特定健診を受けましょう

健康習慣の改善に取り組みましょう

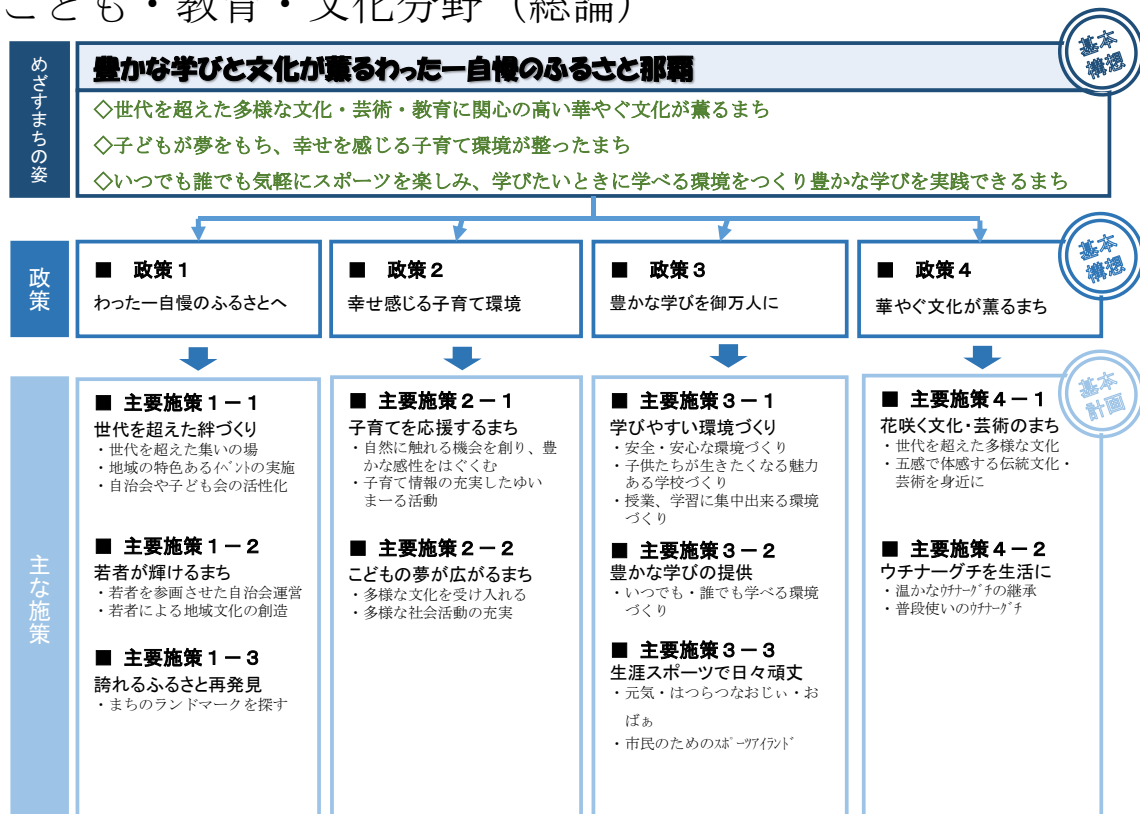
* 禁煙、運動、適正飲酒、睡眠、体重維持、朝食等
自助のススメ⇒自分で出来ることは、自分で行う！

共助のススメ⇒地域の行事に参加して「つながり」を大切に！

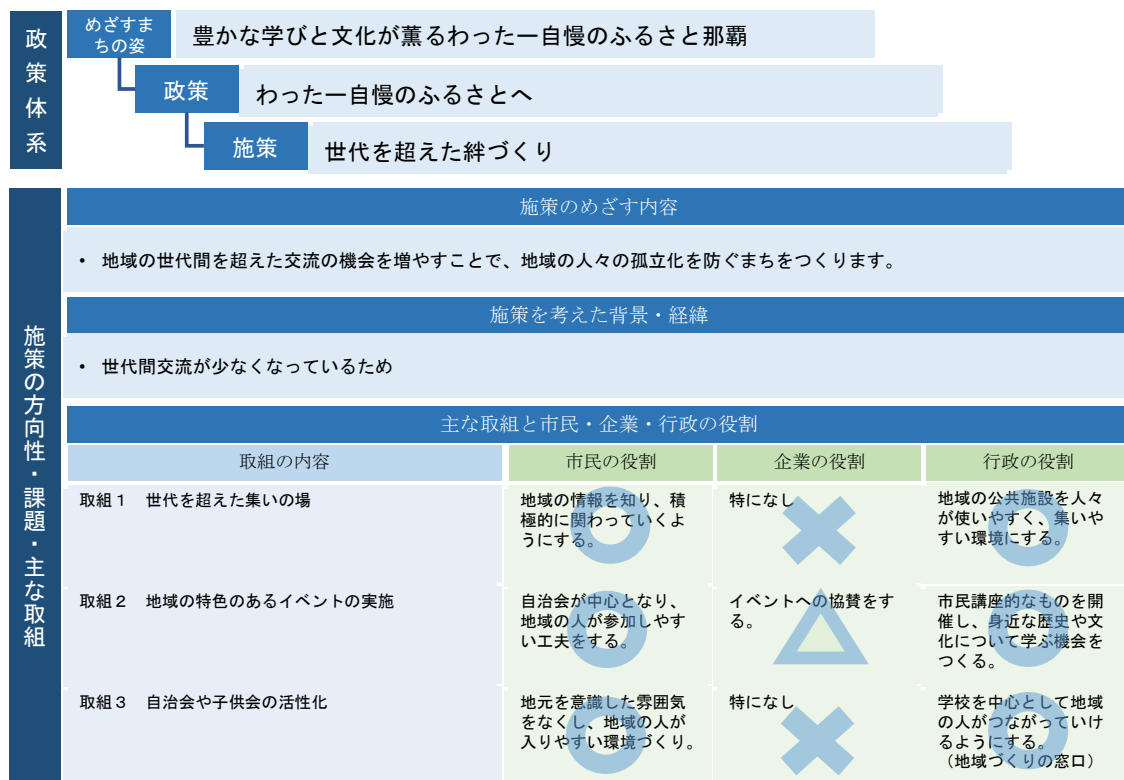
公助のススメ⇒介護・障がい者も暮らしつづけられるまちづくり

私らしく生きる幸せを、お互いに輝き、支え合うまち

こども・教育・文化分野（総論）



こども・教育・文化分野（各論）



こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざま
ちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

わったー自慢のふるさとへ

施策

若者が輝けるまち

施策のめざす内容

- 若者のパワーを地域づくりに取り入れ、地域の活性化を目指します。

施策を考えた背景・経緯

- 地域の「ゆいまーる（地域の助け合い）」精神の弱体化。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 若者を参画させた自治会運営	次世代へ受け継ぐ意識をもって自治会活動の企画運営をする。	地域の活動へ積極的に関われる環境づくりと組織運営。	地域のリーダーを育成する若者対象の講座開催。
取組 2 若者による地域文化の創造	地域の行事や活動を通して関わりをもち、若者の考えや意見に応えていく。	若者を主体としたイベントの協賛。	青年祭など、若者が参加できるイベントの開催。

施策の方向性・課題・主な取組

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

わったー自慢のふるさとへ

施策

誇れるふるさと再発見

施策の方向性・課題・主な取組

施策のめざす内容

- 地域の良さを知ること、地域に愛着が持てるまちにします。

施策を考えた背景・経緯

- 地域のことがわからないので、地域に愛着が持てない。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 まちの魅力ある資源を探す	地域の先輩方や住民の方々との関わりから地域理解を深めたり、再発見したりする。	特になし	その地域に詳しい方の講話や地域周りの機会をつくる。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

幸せ感じる子育て環境

施策

子育てを応援するまち

施策の方向性・課題・主な取組

施策のめざす内容

- こどもがこどもとして尊重され、豊かな感性が育まれることで、希望と自信を持てるようにします。

施策を考えた背景・経緯

- 子育てについての情報を得られる機会が少なく、子育て世帯が孤立化している現状がある。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 自然に触れる機会をつくり、豊かな感性を育む	子どもが積極的に自然に触れる機会をおよがらしてあげる。	学校の長期休業期間を利用した、自然とふれあえるイベントの開催。	学校の長期休業期間を利用した、自然とふれあえるイベントの開催。
取組 2 子育て情報の充実したゆいまーる活動	子育て家庭同士が関われる機会をつくる。	子育てに役立つ情報をチラシ等の一角に掲載する。	行政が支援する事業が市民に伝わりやすいようにする。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

幸せ感じる子育て環境

施策

こどもの夢が広がるまち

施策の方向性・課題・主な取組

施策のめざす内容

- こどもにとって将来を希望する生き方を考える幅を広げ、より深く知ること、望ましい将来を選択することができるようにします。

施策を考えた背景・経緯

- 様々な分野を経験する機会が不足しているため、社会の急激な変化も厳しい。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 多様な文化を受け入れる	有益さと人々への広まりがあるものに対しては、積極的に認めていく姿勢を持つ。	イベントへの主催や協賛	特になし
取組 2 多様な社会活動の充実	子どもたちの体験活動の重要性を理解し、積極的に関わらせる。	出前講座など学校教育への積極的な関わり。	キャリア教育の充実を図るとともに、感動体験ができるようにする。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

豊かな学びを御万人（うまんちゅ）に

施策

学びやすい環境づくり

施策のめざす内容

- 好奇心が旺盛で、活発なこどもたちの学が意欲に応えられる学校をつくります。

施策を考えた背景・経緯

- 安全で学習に集中できない環境にある（オープンスペースの検証が必要）。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 安全・安心で学習に集中できる環境づくり	学校施設などの公共機関の参観を通して環境に対する改善点を積極的にあげていく。	特になし	学習環境の改善があれば即対応し、子どもたちの学習を保障してあげる。
取組 2 こどもたちが行きたくなる魅力ある学校づくり	学校教育活動への協力と子どもと学校について前向きに話ができるようにする。	出前講座など学校教育への積極的な関わり。	子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、一人一人が活躍できる場をつくる。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

豊かな学びを御万人（うまんちゅ）に

施策

豊かな学びの提供

施策の方向性・課題・主な取組

施策のめざす内容

- 生涯にわたって学べる環境を整えることで、社会人の資質向上に貢献します。

施策を考えた背景・経緯

- 学びたいと思う時に、学ぶことができる環境が不足しているため。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組1 いつでも、誰でも学べる環境づくり	生涯学習に対する意識を向上させる。	市民向けの講座に対して協賛する。	公共機関を整備し、使いやすい環境づくりをするとともに、市民向けの講座を行う。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るワッター自慢のふるさと那覇

政策

豊かな学びを御万人（うまんちゅ）に

施策

生涯スポーツで日々頑丈（がんじゅう）

施策の方向性・課題・主な取組

施策のめざす内容

- 元気な高齢者人口の割合を増加させることで、医療費等の様々な負担軽減を図ることができます。

施策を考えた背景・経緯

- 健康長寿のイメージが強かった本県は肥満や成人病の増加により長寿ランキングの順位が低下している。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 元気はつらつなおじい、おばあ	自己の健康管理の大切さを理解し、少しずつ実践する。	デイサービスやデイケアを増やし、身近で利用しやすいようにする。	健康についての広報活動をする。
取組 2 市民のためのスポーツアイランド	日常の中でスポーツを意識した生活ができるようにする。	スポーツクラブが中心となって市民が運動に関われ機会をつくる。	手軽に参加できるスポーツ祭等を開催する。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざま
ちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

華やぐ文化が薫るまち

施策

花咲く文化・芸術のまち

施策のめざす内容

- ・ 伝統を受け継ぎ、多種多様な文化を世代を超えて、発展させていくことが豊かな地域に繋がると考えます。

施策を考えた背景・経緯

- ・ 豊かな地域づくりには、豊かな文化芸術が発達し、それを支える教育や環境を整える必要がある。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 世代を超えた多様な文化	機会を見つけて触れたり関わったりする機会をつくる。	発表会等の協賛。	関心を高めるための情報発信や市民講座を設けたり、企画展などをする。
取組 2 五感で体感する伝統文化・芸術	伝統文化や芸術について学ぶ機会を持ち、その価値に気づく。	発表できるイベントの開催。	芸術文化を気軽に体験できる場をつくる。

こども・教育・文化分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇

政策

華やぐ文化が薫るまち

施策

ウチナーグチを生活に

施策の方向性・課題・主な取組

施策のめざす内容

- ウチナーグチを将来に継承させることで、ウチナー文化の発展につなげます。

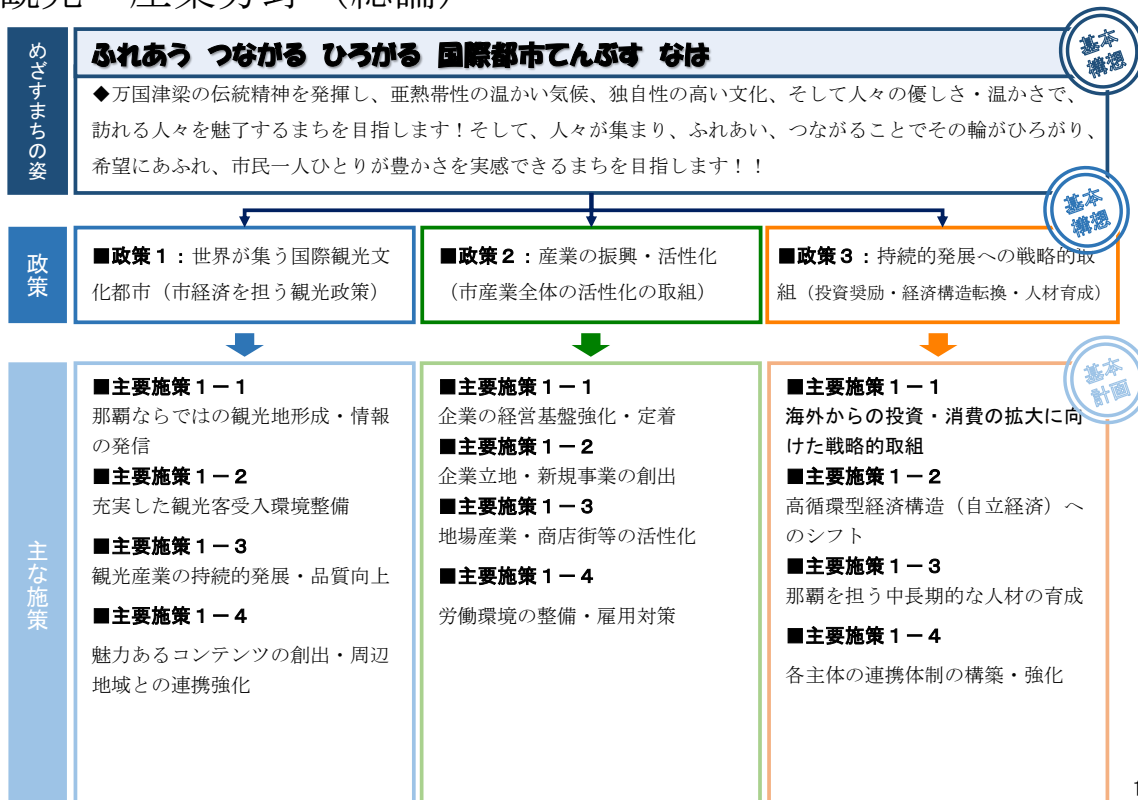
施策を考えた背景・経緯

- ウチナーグチを日常的に耳にする機会が少なくなり、今後廃れる可能性があります。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
取組 1 温かなウチナーグチの継承	各家庭においてテレビや本等からウチナーグチを楽しく学ぶ機会をもつ。	ウチナーグチや沖縄の歴史や文化に関する情報を発信する。	学校などの公共機関を通しウチナーグチを広める取り組みをする。
取組 2 普段づかいのウチナーグチ	お年寄りとの交流や家庭内において積極的に活用する。	マスメディアを通して積極的に活用する。	ウチナーグチに関する市民講座を多く開催し、市民が参加できる機会をつくる。

観光・産業分野（総論）



1

観光・産業分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

世界が集う国際観光文化都市

施策 1

那覇ならではの観光地の形成・情報の発信

施策のめざす内容

- ・那覇の多様な観光資源を維持、活用、創出していくことで、更なる魅力の向上をめざします。
- ・国際観光文化都市として、那覇らしい景観を創出することで、訪れる人々へ非日常空間を感じてもらふことをめざします。
- ・那覇の魅力を戦略的に国内外へ発信することで、誘客拡大をめざします。

施策を考えた背景・経緯

- ・那覇には、伝統文化・史跡などの文化資源や、歴史、風土に培われた多様な観光資源が溢れていて活用するべきです。
- ・那覇に滞在し多様な観光資源に接する機会を充実させることで、那覇の独自性を感じ、非日常空間を体感してもらふ必要があります。
- ・人口減少時代において、交流人口を増やしていくため、那覇の魅力を国内外へ発信し、都市としてのブランド力をあげる戦略的なプロモーションを行っていく必要があります。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組 1】多様な観光資源の維持、活用、創出 歴史文化資源の維持／伝統文化の維持・継承／資源を活用した商品開発／ランドマーク的な観光資源を中心とした物語性の創造／…	観光資源の認識／維持・保全／伝統文化の維持・継承／情報発信	観光資源の認識／維持・保全／那覇ならではの商品開発／物語性の創出／…	観光資源の維持・保全／環境整備／物語性の創出／商品開発の支援／…
【取組 2】国際観光文化都市にふさわしい景観の創出 非日常空間の創出（亜熱帯都市としての那覇らしい景観・街並みの整備）／ごみのない風格ある環境づくり／景観条例の活用／環境・景観保存に対する意識向上／…	自治会への加入／ボランティア協定の締結／地域の清掃活動等への参加	ボランティア協定の締結／各主体との連携／…	環境の整備／ボランティア協定の締結／各主体との連携
【取組 3】戦略的プロモーション・観光情報の発信強化 国内外向けプロモーション強化／観光資源のブランド化／最新IT技術の活用、市民による那覇市魅力発信運動／…	WEBやSNSを活用した情報発信	プロモーション強化／那覇ならではの取組実施・発信	プロモーション強化／各主体との連携・支援

2

施策の方向性・課題・主な取組

2

観光・産業分野（各論）

めざす
まちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

世界が集う国際観光文化都市

施策 2

充実した観光客受入環境の整備

施策のめざす内容

- ・今後も増加が見込まれる国内外からの観光客が、不自由なく那覇に滞在し、まちを満喫できることをめざします。
- ・観光客にとって安全で安心、かつ快適なやさしい観光地を形成します。
- ・移動しやすく快適な交通環境を整備することで、コンパクトシティならではの利便性向上をめざします。

施策を考えた背景・経緯

- ・那覇空港第二滑走路事業など、今後も観光客の増加が見込まれ、多様なニーズに応じた受入環境の整備が急務となっています。
- ・自然や人的な災害、事故の発生時に、地理に不案内な観光客を速やかに避難誘導するための体制整備が求められています。
- ・那覇市の課題として、慢性的な交通渋滞があげられており、それは観光客の移動利便性や快適性を阻害する要因となっています。
- ・観光客が観光スポットを便利に巡れるよう、公共交通の整備や遊歩道、自転車専用道路など市内回遊を促す仕組みが必要です。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組 1】国際化(インバウンド)に対応した観光地形成 Wifi等通信環境整備／言語の壁の解消／適切な情報提供(多言語化)／決裁環境の充実／市民との交流の場の創出／異文化理解・対応／ニーズの把握・分析／...	多文化共生への理解／各主体との連携	国際化に対応した商品開発・サービス提供／異文化への理解	ニーズの把握・分析／各主体との情報共有／設備投資／異文化交流の推進
【取組 2】安心、安全、快適なやさしい観光地形成 バリアフリー観光の取組／ユニバーサルデザイン対応／自然災害時の対応／治安の維持／環境への配慮／観光バス駐車場の設置／...	地域の防災拠点の認識／各主体との連携	行政との災害連携協定の締結／設備投資	各主体との認識の共有／企業との災害連携協定の締結
【取組 3】誰もが移動しやすい快適な交通環境の整備 交通渋滞の解消／公共交通機関の有効活用／市内周遊交通網の構築／乗継利便性の高い交通結節点整備／遊歩道／自転車専用道路／新たな交通手段の導入／...	公共交通の積極的利用／自転車利用の促進／パークアンドライドの利用	公共交通の積極的利用／意識啓発イベント等の開催	インフラ整備／交通関係団体との連携／公共交通利用の促進／政策立案

施策の方向性・課題・主な取組

3

3

観光・産業分野（各論）

めざす
まちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

世界が集う国際観光文化都市

施策3

観光産業の持続的発展・品質向上

施策のめざす内容

・那覇にとって観光産業は重要な基幹産業であり、持続的に発展させることで、今後の市経済全体の発展に寄与します。持続的発展にはそこに住む市民の果たす役割が重要となります。市民の観光に対する理解と故郷への誇りを深める取組により、市民を巻き込んだおもてなしの心あふれる観光地をめざします。

施策を考えた背景・経緯

・観光産業のみならず、関連する産業やまちづくりへと波及させるためには、観光業界だけでなく様々な業界・団体と横断的な連携が必要となります。また、市民をはじめ、市全体が一枚岩となった観光客へのおもてなしの意識の向上が必要となります。

・観光産業が持続的な発展を遂げる上では、まちづくりと調和した観光地を形成していくことが求められています。

・一部観光客の大量購入が一段落し、今後は「モノ」から、那覇でしか得られない質の高いサービス、体験を提供することが重要です。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組1】市を挙げたおもてなしの強化 「32万人な一ふあ観光大使づくり」／受入意識の醸成・向上／受入機運醸成／声掛け運動／市民参加型プログラム／…	受入意識の向上／観光客等への声かけ／交流プログラムへの参加	受入機運の醸成／真心こもった接客／サービスの質の向上／認定制度等の取得	受入機運の醸成／声掛け運動の推進／市民・企業への情報提供／各主体との連携
【取組2】まちづくりと調和した観光地の形成 地域色の一体化／統一感の醸成／観光施設周辺の整備／自治会との連携／	観光の資源を活かした観光地づくりへの参画／自治会への参加	地域と一体となったサービスの提供／地域色にあった設備環境の整備	関連部署との連携／各主体との連携／プロデューサーの育成
【取組3】周辺地域との広域連携で多様化、品質向上 観光ニーズの把握／サービス・事業所認定・認証制度／観光資源品質維持・向上／新観光資源・体験型観光発掘と開発／周辺地域・関係団体連携会議設置／…	観光の担い手としての自覚／地域資源の品質維持／各主体との連携	サービス・商品の質の向上／接客の向上	ニーズ把握・分析／各主体との連携／周辺地域との連携・調整／インセンティブ付与制度

施策の方向性・課題・主な取組

4

4

観光・産業分野（各論）

政策体系

めざす
まちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

世界が集う国際観光文化都市

施策4

魅力ある観光コンテンツの創出・周辺地域との連携強化

施策のめざす内容

- ・那覇ならではのイベントの継続発展、大型イベントを誘致・開催することで更なる観光客の増加をめざします。
- ・那覇の多様な資源を最大限に活用した観光プログラムを創出することで魅力の向上をめざします。
- ・他地域との連携体制を構築し、周辺地域と一体となった観光地づくりを推進することで、那覇市に恩恵をもたらすことをめざします。
- ・亜熱帯性気候の特性を活かしたスポーツ・コンベンションを誘致・設立、医療ツーリズムを拡大し経済構造を活性化します。

施策を考えた背景・経緯

- ・那覇では、沖縄独自の伝統文化に関連するイベントや、亜熱帯性気候を活かした国内外にも知名度が高いスポーツイベント等が開催されています。東京オリンピック空手の正式種目化を見据え、これらを維持・発展させて観光誘客数の増加に繋がります。
- ・地域の魅力をあげていくため国内外からの大型イベントを誘致・開催し、市のステータスをあげていく必要があります。
- ・温暖な気候を活かし、スポーツや医療分野での需要を拡大します。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組1】那覇ならではのイベントの継続発展・大型イベントの誘致 東京五輪・空手競技化対応／那覇三大まつり・NAHAマラソン・国際映画祭拡充／国内外からの大型イベント誘致／修学旅行の誘致拡大／…	イベントへの参画／情報の拡散／各主体との連携	国内外イベント誘致／関係団体と連携した企画／実行委員会等への参画／各主体連携	国内外イベント誘致／関係団体と連携した企画／実行委員会等への参画／各主体連携
【取組2】地域資源を活かした観光プログラムの開発 リゾートウェディング／滞在スタイルの拡充・提供／エコツーリズム／オフシーズン観光開発／…	観光資源の発掘／情報の拡散	新商品の開発／関係団体と連携した企画／サービスの質向上	観光プログラム創出／企業支援／関係団体と連携した企画
【取組3】特性を活かしたスポーツコンベンション誘致 プロ野球キャンプ等の継続誘致／スポーツ大会・イベント誘致／こどものスポーツ機会の向上／医療・リハビリ分野の開拓／…	体験型観光プログラムへの参加協力／観光地の整備保存協力	関係団体と連携／情報共有	関係団体と連携／情報共有

施策の方向性・課題・主な取組

5

5

観光・産業分野（各論）

めざすまちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

産業の振興・活性化

施策 1

企業の経営基盤強化・定着

施策のめざす内容

・地域を支える中小企業等が社会の変化や多様なニーズに対応し、着実に成長発展が遂げられるよう、経営基盤の強化、技術力や生産性の向上、人材の多様化、金融支援等に係るきめ細やかな施策を講じることで、中小企業等の活力を高めていきます。

施策を考えた背景・経緯

・経営基盤の強化や経営革新の支援などの多面的な取組により、市内構成比の高いサービス産業のさらなる成長など、既存産業の強化を図る必要があります。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組 1】持続的な成長を促進する経営基盤の強化 インセンティブ付与制度設置／人材育成／効果的な設備投資／	新しい産業に就職する チャレンジ精神、柔軟性の発揮	マネジメントの高度化／人材育成／人的・財務等資産管理の高度化／	企業への政策的支援／現状分析・分析結果の共有／低利融資・保証
【取組 2】中小企業経営支援(経営相談、資金調達等) 経営者塾・啓発セミナー開催／経営・技術支援／産学官民連携交流会／資金調達の円滑化／	被雇用者から起業へ。 マインドの転換	経営者塾・啓発セミナー開催／各主体との交流・連携	企業への政策的支援／経営者塾・啓発セミナー開催／経営・技術支援／低利融資・保証
【取組 3】生産効率の向上、販路開拓の促進 技術革新による効率化／IT技術の利活用／既存制度を活用した販路拡大促進／高付加価値・サービスの開発・投入／AI・IoT技術の利活用／	新しい技術を習得する チャレンジ精神の発揮	設備投資／マーケティング調査／積極的販路拡大／高付加価値・サービスの開発・提供	企業への政策的支援／経営・技術支援／低利融資・保証

施策の方向性・課題・主な取組

6

6

観光・産業分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

産業の振興・活性化

施策 2

企業立地・新規事業の創出

施策のめざす内容

- ・企業数の増大による「税収の確保」「雇用の創出」「市内企業の事業機会の拡大」をめざします。
- ・既存企業の自らの強みを活かした持続可能な経営を目指す新事業・新産業への取組を促進し、本市の産業基盤の拡大をめざします。

施策を考えた背景・経緯

- ・本市の経済を持続的に発展させていくには、既存の企業の経営基盤の強化とあわせて、新たな企業や産業を創出することで規模を拡大していく必要があります。また、新たな企業や産業が創出されることによって、既存企業や、地域内でイノベーションが起き、地域経済の起爆剤となることも予想されます。
- ・ICT技術を活用した交通や距離に関係ない新事業・新産業の育成が必要です。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組 1】企業誘致・定着の推進 インキュベーター施設の最大活用／本社機能の誘致／産業集積の強化／既存特区制度を活かした誘致／特区新設／誘致の際の他地域との差別化・メリット拡充／…	新産業への協力と参加・連携	競争力の強化／各種制度の有効活用／地元雇用の促進	地域の優位性の明確化／特区制度の有効活用／国内外向け誘致活動／各主体との連携
【取組 2】起業家育成、新事業の創出 新事業・新産業育成支援／なはならではのものづくり／ビジネスモデルの構築／新商品や観光サービス等の開発に必要なノウハウ、技術、資金等の支援／…	起業するチャレンジ精神の発揮	なはならではのものづくり／ビジネスモデルの構築／新規事業企画	各種補助制度を活用した補助／支援プログラムの構築／
【取組 3】国際競争力の強化 那覇ならではの地域資源の活用／地域ブランドの形成／東アジア地域との経済連携強化／…	各主体との連携／那覇市の現状認識	世界に目を向けた積極的な事業展開／	地域の優位性の明確化／地域ブランドの魅力向上・発信

施策の方向性・課題・主な取組

7

観光・産業分野（各論）

政策体系

施策の方向性・課題・主な取組

めざす
まちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

産業の振興・活性化

施策3

地場産業・商店街等の活性化

施策のめざす内容

・本市の商業は、本市の活力維持と市民生活の向上に寄与するとともに、都市の賑わいを創出するなど、様々な面から本市が発展する上で重要な役割を果たしてきました。観光資源としても大切であり今後も、中心市街地を中心とした商業等の振興に関する施策を総合的に推進することで、市内経済の発展と市民生活の更なる向上をめざします。

施策を考えた背景・経緯

・歴史や風土に培われた伝統工芸や生業、市民のマチグラー文化などは、那覇ならではの「生活文化資源」かつ観光資源であり、それら固有の資源を活性化することで那覇らしさを磨いていく必要があります。

・地域の商業振興を図っていくためには、消費者のニーズの動向を的確に捉え、IT等を活用して積極的に情報発信することも必要です。

・各店舗・事業者等が連携・協力しつつ活性化に向けた検討・活動を進めることが不可欠で、地域力の強化が求められます。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組1】中心市街地(マチグラー等)の活性化・協働 大型との既存商業の共生／観光資源としての活性化／サービス業の高付加価値化／消費者ニーズ・動向の把握／那覇らしさの追求／マチグラーのインフラ整備／…	商店街での購入・消費 ／各主体との連携／魅力の発信／	住民との連携／魅力の発信／活性化のための支援／各主体との連携	インフラ整備／活性化のための支援／魅力の発信／各主体との連携／ビジョンづくり支援
【取組2】農水産業の振興、情報産業拠点強化 広報活動／地産地消の推奨／食育等活動／後継者育成／質の向上／流通対策・販路拡大／人材育成／民間投資の誘導	地産地消の推奨／マチグラーでの購入・消費 ／家庭における食育の推進／	広報活動／地産地消の推奨／教育現場等との連携／積極的販路拡大／	インフラ等環境整備／広報活動／地産地消の推奨／各主体との連携／
【取組3】市伝統工芸、物産品発展の情報発信強化 伝統工芸品販路拡大／広報活動／後継者育成／IT技術の利活用／	伝統工芸品の購入・PR ／各主体との連携	伝統工芸品の活用・購入／新規モデル・デザイン策定／各主体との連携／広報活動／	インフラ等環境整備／広報活動／各主体との連携／資金的支援

8

8

観光・産業分野（各論）

めざす
まちの姿

政策

産業の振興・活性化

施策4

労働環境の整備・雇用対策

施策のめざす内容

・市民が働きがいのある仕事に就けるよう、各主体が一体となって多様な雇用の場の創出や就業支援、雇用環境を整備し、労働者が安心して働ける社会の形成をめざします。

施策を考えた背景・経緯

・現在、観光関連産業等第三次産業を中心とした経済が好調であるため、雇用の受皿も拡大しています。労働市場は、改善傾向にはあるものの失業率は高止まり、若年者の高い離職率、非正規雇用の増加等の課題を抱えています。そのため企業の人手不足感が高まり、雇用問題が県経済全体の制約要因となることが懸念されます。好調な経済を維持・発展させるため、様々な産業振興施策と一体となって雇用対策をうっていく必要があります。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組1】働きやすい職場環境づくり 年間労働時間の短縮／育児、介護に対する支援体制の充実／ワーク・ライフ・バランスの充実／賃金増額	有給等の積極活用	マネジメントの高度化 ／賃金等労働環境改善 ／正社員化／行政連携 ／支援制度設置／	市民相談体制の充実・強化／まちづくりの機運醸成／社会保障・賃金増額企業支援
【取組2】雇用機会の創出・拡大、求職者支援 ミスマッチの解消／女性の就労促進／子育て応援体制の拡充／正規雇用への移行／正規・非正規の処遇均衡／職業相談体制の充実・強化	地域産品の愛用／女性の就労促進／各主体との連携	人材の育成／子育て応援体制の拡充／正規雇用化／	職業相談体制の充実・強化／正規採用実施企業への支援策／
【取組3】若年層の雇用促進 就業意識の向上／ジョブトレーニングによるマッチング強化／雇用支援制度の利活用／早期離職の防止／	家庭における就業意識の向上／地域内取組／県外、海外への就職チャレンジ／	インターンシップ、職場体験の受入促進／	インターンシップ、職場体験の実証実験／機運の醸成／推進企業への支援策

9

9

観光・産業分野（各論）

政策体系	めざす まちの姿	ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは
	政策	持続的発展への戦略的取組
	施策 1	海外からの投資・消費の拡大に向けた戦略的取組
施策の方向性・課題・主な取組	施策のめざす内容	
	・国内外の経済の変化をいち早く捉え、決して後れをとることなく対応することで、変化に応じた最大の相乗効果を得ることをめざします。 ・アジアの巨大なマーケットの中心に位置する地理的優位性を生かし、成長著しいアジア経済を取り込むことで、市経済規模の拡大をめざします。	
	施策を考えた背景・経緯	
	・那覇市は、2021年は市制施行100周年を迎え、これから先10年は沖縄県や那覇市にとって重要な局面を迎えます。市経済に影響を与えるさまざまな事象をうまく捉え、持続的発展に向け戦略的に取組む必要があります。 ・那覇空港第二滑走路完成、モノレール旭橋バスターミナル再開発完了等が予定され、周囲ではMICE施設（与那原町）完成、沖縄振興計画改定（一括交付金終了）等、本市をめぐる環境は大きく変化していきます。	
	主な取組と市民・企業・行政の役割	
	取組の内容	市民の役割
	【取組 1】経済状況の変化を捉えた迅速な対応 那覇空港第二滑走路完成／旭橋駅再開発完成／アフターMICE／クルーズ船対応／浦添西海岸開発／物流拠点強化／…	おもてなし力の強化／観光客受入の意識の向上／語学能力向上／…
	【取組 2】アジアのダイナミズムを取り入れる 沖縄県との連携／在外公館・日本貿易振興機構（JETRO）等関係団体との連携／友好都市との連携／アジア各国との連携促進／マーケティング拠点の促進／…	各連携主体との情報共有・連携／…
	【取組 3】アジア各国への売り込み強化 那覇の東アジアのハブとしての地理的優位性のPR／各国からの投資の促進	人材としての能力強化（IT・語学等）／…
		企業の役割
		サービスの質向上／新商品開発／受入体制の強化／市のPR／雇用拡大／企業内人材育成／…
		行政の役割
		インフラ・ソフト面の整備／条例等整備／各主体との情報共有・受入連携／…
		特区等制度の周知／進出企業・貿易の支援／機運醸成／友好都市との連携協定締結／…
		進出企業との取引強化／アジア各国企業との関係強化／…
		県内企業へのアジア進出支援／県への進出企業への優遇策／経済特区の拡大／

10

観光・産業分野（各論）

政策体系	めざす まちの姿	ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは
	政策	持続的発展への戦略的取組
	施策 2	高循環型経済構造（自立経済）へのシフト
施策の方向性・課題・主な取組	施策のめざす内容	
	・地域活性化のために産業の振興、雇用の創出、域内消費の拡大、税収の増加などを狙って、企業誘致や公共投資をおこなっても、地域外に資金が漏出しては、市民所得の向上に繋がらず意味を成しません。地域内の産業を拡大・活性化させ経済循環構造を高め、雇用を創出して、市民の所得の向上につなげていくことをめざします。	
	施策を考えた背景・経緯	
	・那覇市の経済を自立的にするためには地産・地消費とした新しい経済構造・仕組みが必要です。 ・地域の消費活動が地域経済にどのような影響を与えているのか、地域内でどれくらいの資金を獲得し、それが程度循環しているのか、地域経済は上手く循環しているのか、資金の漏出はどの程度かなどを、的確に分析し、今後の施策に活かしていく必要があります。 ・経済を持続的に発展させるためには、得られた結果を施策化し、効果的に施策を実施していく必要があります。	
	主な取組と市民・企業・行政の役割	
	取組の内容	市民の役割
	【取組 1】産官学民等による地域経済構造等分析機関の設置 多様な主体からなる研究機関の設置／分析結果の共有／那覇モデルの確立／…	那覇市の現状認識／各主体との連携
	【取組 2】産官学民等による新経済モデルの策定 地産・地消費を核とした那覇モデルの確立／…	戦略策定への協力／市民意見の提出／…
	【取組 3】（仮称）那覇市経済・産業振興成長戦略の策定・実施 成長戦略の策定／進捗管理／…	戦略実施への協力／市民意見・評価の提出／県産品・地元製品の積極購入
		企業の役割
		行政・大学との連携／研究機関への人材の創出
		戦略策定への参画／経済界の現況について情報提供／市全体が一体となった戦略策定
		戦略策定への参画／市全体が一体となった戦略策定
		策定戦略の実施・推進／戦略の徹底／戦略実施企業・団体への支援

11

観光・産業分野（各論）

めざす
まちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

持続的発展への戦略的取組

施策 3

那覇を担う中長期的な人材育成

施策のめざす内容

・今後の、市経済を支える人材の育成など、産業界・教育界・行政・住民団体等の地域ネットワークと連携し、様々な取組を展開することで、持続可能な経済成長をめざします。

施策を考えた背景・経緯

・好調な沖縄経済を背景に、有効求人倍率が復帰後最高を記録するなど雇用の「量」は拡大するも、人手不足が深刻化しています。
・賃金は未だ全国最下位で、底上げが求められます。そのためには即戦力となり、質の高い人材育成が不可欠です。
・人材育成は長期を見据えた取組が必要となります。好調な経済状況を維持・発展、常態化させるためにも、人づくりは喫緊の課題です。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組 1】賃金上昇に繋がる多様な人材育成 多言語・多文化国際人の育成／サービス・ものづくり人材の育成／観光と産業をつなぐ国際ビジネス環境・人材の育成／伝統文化の担い手の育成／...	市経済発展への理解度の向上／各主体との連携／	職場内研修の充実・強化／研修プログラムの充実・強化／各種支援プログラムの活用	各産業ごとへの支援／機運の醸成／各主体との連携
【取組 2】地域ネットワークと連携した人材育成 産業界・教育界・行政・住民団体等と連携したニーズの高い人材育成／...	各主体との連携／認識の共有	各主体との連携／認識の共有	各主体との連携／認識の共有
【取組 3】中・長期を見据えた人材育成戦略の策定 人材教育プログラムの充実／賃金処遇の改善／...	受入意識の向上／	賃金・受入体制の整備／インターン等人材教育プログラムの充実／	受入環境の整備／受入に係る制度面の支援／賃金改善企業への支援

12

12

観光・産業分野（各論）

政策体系

めざすまちの姿

ふれあう つながる ひろがる 国際都市てんぶす なは

政策

持続的発展に向けた戦略的取組

施策 4

各主体の連携体制の構築・強化

施策のめざす内容

・市民、企業、行政が相互に連携し那覇市全体が一枚岩となって取り組んでいくことで、持続的発展にむけた経済拡大をめざします。

施策を考えた背景・経緯

・人口減少や高齢化社会の到来、世界経済の不透明性など、今後の那覇市を取り巻く厳しい状況を踏まえると、那覇市の経済が持続的に発展し、住民の福祉の向上に資するためには、市民、企業、行政などの各主体が相互に連携し、一枚岩となって取り組んでいく必要です。

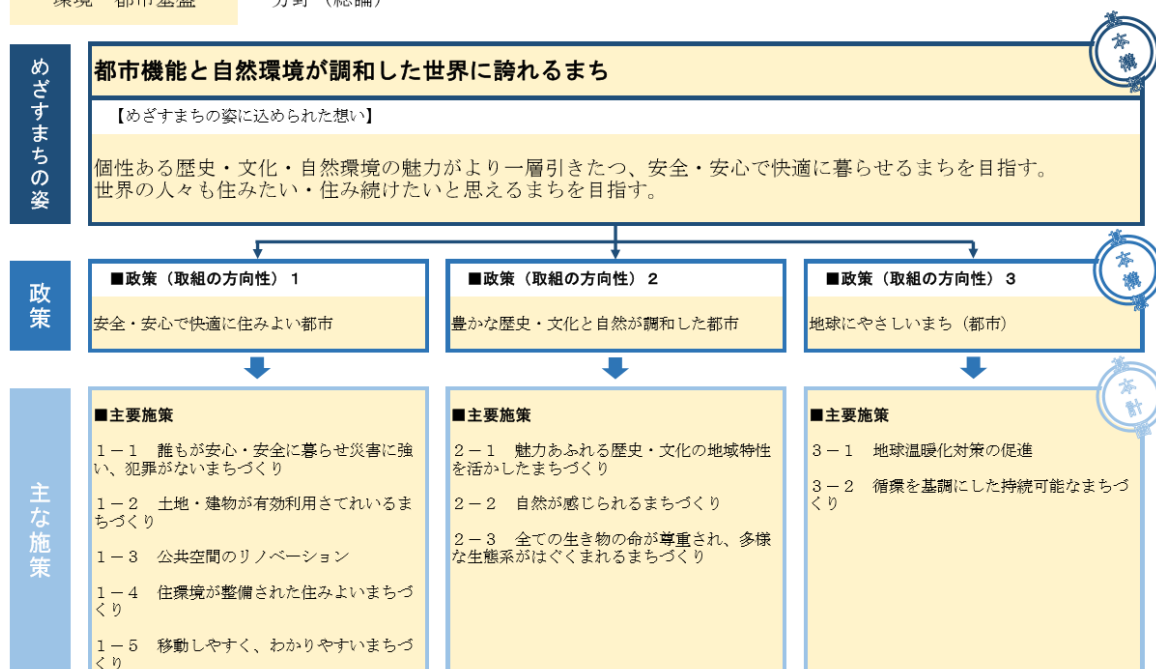
・そのための体制をヒト・モノ・カネの面から構築することが重要であると考えます。

主な取組と市民・企業・行政の役割

取組の内容	市民の役割	企業の役割	行政の役割
【取組1】（仮称）那覇市経済振興戦略会議の設置 戦略会議の設置／那覇市の未来に向けた建設的協議／実施事項の集中と選択／…	戦略会議への参画／意見表明	戦略会議の設置・参画／戦略的施策の企画・実施／各主体との連携	戦略会議の設置・参画／戦略的施策の企画・実施／各主体との連携
【取組2】各主体（産学官民等）パートナーシップの提携 各主体それぞれが持つ得意分野におけるパートナーシップの提携／各分野でのキーパーソン育成／…	自治会や住民中心の社会・経済活性化への連携／市民組織の活性化／各取り組みへの参加	調査研究／パートナーシップの提携／	調査研究／パートナーシップの提携／
【取組3】SIB（Social Impact Bond）等新たな社会的投資モデルの導入検討 調査研究／モデル事業の実施／…	調査研究への参加／意見表明／債権購入	調査研究／行政、大学等との連携	調査研究／行政、大学等との連携

19

13



【公共空間のリノベーション】

コンセプト

- ・現在ある公共施設・公共空間を最大限活用する。
⇒市民の施設利用頻度の向上。
- ・維持管理費の削減。
⇒指定管理者制度や新たな制度等を利用し経費削減をはかる。



♡市民の満足度・幸福度向上に繋がる♡

・公園のリノベーション

⇒店舗等を設置し、公園内で稼ぎ、管理費の削減をはかる。

・学校のリノベーション

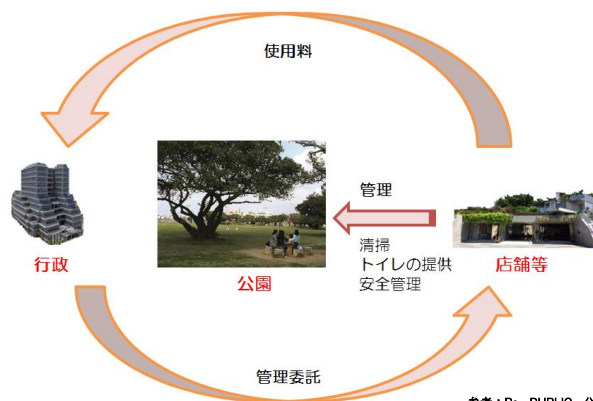
⇒空き教室等を地域へ開放し、使用料を徴収し、管理費の削減をはかる。

・団地のリノベーション

⇒団地の駐車場にカーシェアリング導入…検討など。

・その他・・・∞

公園のリノベーション（仕組みの概念図）



参考：Re PUBLIC 公共空間のリノベーション

公園の事例は、全国的にも着実に増えてきています。

那覇市でもすでに行っています。

（松山公園文化交流施設）



1-5 移動しやすく、わかりやすいまちづくり

・道路渋滞の解消



⇒鉄軌道（LRT）の導入

・但し、将来的な自動運転技術（レベル4）進捗状況等も考慮して計画する。

⇒自転車道の整備推進

・自転車駐輪場の整備（地下など）



豊かな歴史・文化と自然が調和した都市

施策1 魅力あふれる歴史・文化の地域特性を活かしたまちづくり

施策2 自然が感じられるまちづくり

施策3 全ての生き物の命が尊重され、多様な生態系が育まれるまちづくり

市内全域FreeWiFiの推進

外来生物への管理が適正にされているまち

地球にやさしいまち

施策1 地球温暖化対策の推進

施策2 循環を基調にした持続可能なまちづくり

一人ひとりがライフスタイルを見直し、温室効果ガスの削減に向け取り組む。

これまで以上に4Rを推進する。

V 平成 28 年度なは市民協働大学院の受講生と運営ルール

受講生名簿

① 自治・協働・防災グループ

◎ 大城 健正	◎ 金城 恵里佳
◎ 嘉数 学	◎ 饒波 正博
◎ 金指 明典	◎ 吉嶺 努

② 保健・福祉・医療グループ

◎ 知念 忠彦	◎ 喜久里 桂樹
◎ 續 洋子	◎ 大滝 博之
◎ 菅谷 明子	◎ 宮城 輝

③ 子ども・教育・文化グループ

◎ 加藤 美奈子	◎ 前原 正人
◎ 我謝 良彦	◎ 真喜志 達哉
◎ 田端 温代	◎ 與儀 脩平

④ 産業・観光・情報グループ

◎ 兼次 賢一	◎ 玉城 徳正
◎ 慶佐次 興和	◎ 又吉 盛斗
◎ 田中 洋人	◎ 宮地 順子

⑤ 環境・都市基盤グループ

◎ 赤嶺 剛	◎ 玉城 浩次
◎ 我那覇 正	◎ 名嘉元 利治
◎ 島袋 貴美子	



平成 28 年度なは市民協働大学院運営ルール

次の運営ルールを受講生が主体的に策定し、協働大学院を運営しました。



グループで話し合うときのルールです。
皆さんで共有し、会議をスムーズに進行していきましょう！

1	1 分間ルール （話は手短かに！）
2	全員発言 （自分の考えをみんなで共有しましょう！）
3	わかりやすい説明を心がける （小学生でもわかるように！）
4	人の話を聞く（発言しやすい雰囲気大切に！）
5	時間を決める（会議の終わりを共有し、時間内に！）
6	司会（タイムキーパー）をおく（ルールの守り番！？）
7	ルールは見直すことができる

《会議に参加する前の準備・姿勢・心構え》

- ① 事前に参加の可否、遅れるなどの連絡をする
- ② 議論をあじわう！
- ③ ゆっくりめを意識して話す
- ④ 結論から述べる
- ⑤ 建設的に意見を言う
- ⑥ ルールを守る！

平成 28 年度なは市民協働大学院受講生活動結果報告書
～第5次那覇市総合計画市民提案～

発行 平成 29 年3月

発行：那覇市 企画財務部 企画調整課

市民文化部 まちづくり協働推進課

住所：〒900-8585 沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号

電話：098-862-9937

ファックス：098-862-4263

URL：<http://www.city.naha.okinawa.jp/>